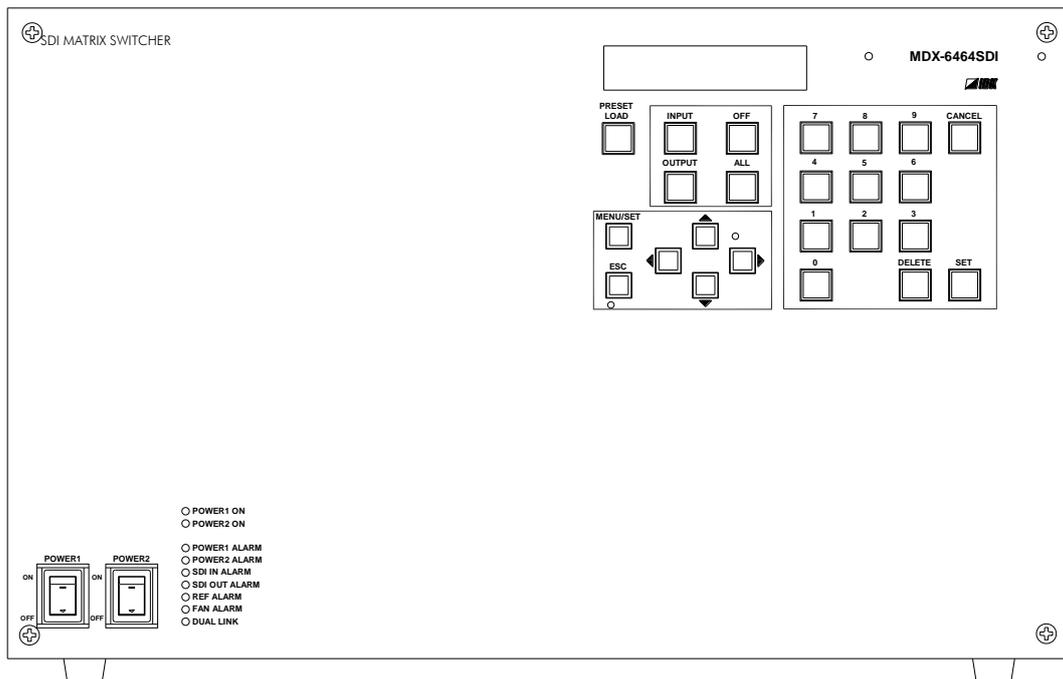


SDI マトリクススイッチャ MDX-6464SDI

<ユーザーズガイド>

取扱説明書 Ver.1.1.0



- この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
- 本製品の性能を十分に引き出してご活用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、お読みになった後は、本製品近くの見やすい場所に保管してください。

商標について

- Microsoft, および Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。
なお、本文中において、®マークや™マークを省略している場合があります。

この取扱説明書をお読みいただく前に

- この取扱説明書の無断転載を禁じます。
- お客様がお持ちの製品のバージョンによっては、この取扱説明書に記載される外観図、メニュー操作および通信コマンドなどが、一部異なる場合がありますのでご了承ください。
- 取扱説明書は改善のため、事前の予告なく変更することがあります。最新の取扱説明書は、弊社のホームページからダウンロードすることができます。

<http://www.idk.co.jp/>

取扱説明書の分冊構成

この取扱説明書は、目的に応じて分冊で提供しています。必要に応じて、各取扱説明書をお読みください。なお、コマンドガイドについては、ホームページからの提供となります。

■ ユーザーズガイド（本書）

[目的]

- ・ 簡単な操作方法を知る。
- ・ 設置し、他の機器と接続する。
- ・ 入出力調整や設定などをする。

■ コマンドガイド

[目的]

- ・ シリアル通信および LAN 通信などによる外部制御をする。

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

安全上のご注意

本製品をご使用前に必ずお読みください。

この取扱説明書には、お客様や他の人への危害や損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。

次の内容（表示・図記号）を良く理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

「警告」、「注意」、「記号」の意味

表示	表示の意味
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示します。

図記号	図記号の意味	記号例
 注意	この記号は、警告・注意を促すことを告げるものです。 図の中に具体的な注意内容が描かれています。	 感電注意
 禁止	この記号は、禁止行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容が描かれています。	 分解禁止
 指示	この記号は、行為を強要したり指示したりする内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容が描かれています。	 プラグを抜く


警告

 禁止	不安定な場所に置かない 水平で安定したところに設置してください。本体が落下・転倒してけがの原因になります。
	振動のある場所に置かない 振動で本体が移動・転倒し、けがの原因になります。
	異物をいれない 通風孔などから金属類や紙などの燃えやすいものが内部に入った場合、火災・感電の原因になります。
	電源コード・電源プラグは <ul style="list-style-type: none"> ・傷つけたり、延長するなど加工したり、過熱したりしない ・引っ張ったり、重いものを乗せたり、はさんだりしない ・無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。電源コード・電源プラグが傷んだら、弊社営業部までお問い合わせください。
 分解禁止	修理・改造・分解はしない 内部には電圧の高い部分があり、感電・火災の原因になります。内部の点検・調整および修理は、弊社営業部までお問い合わせください。
 接触禁止	雷が鳴り出したら電源コードや LAN ケーブル、本体などには触れない 感電の原因になります。
 指示	据付工事について 技術・技能を有する専門業者が据え付けを行うことを前提に販売されているものです。据え付け・取り付けは、必ず工事専門業者または弊社営業部までお問い合わせください。火災・感電・けが・器物破損の原因になります。
	電源プラグは、コンセントから抜きやすいように設置する 万一の異常や故障のときや長時間使用しないときなどに役立ちます。
	電源プラグは指定電源電圧のコンセントに根元まで確実に差し込む 差し込み方が悪いと、発熱によって火災・感電の原因になります。傷んだ電源プラグ、緩んだコンセントは使用しないでください。
	電源プラグの埃などは定期的にとる 電源プラグの絶縁低下によって、火災の原因になります。
 プラグを抜く	煙が出ている、異音、異臭がするときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用をすると、火災・感電の原因になります。煙が出なくなるのを確認し、弊社営業部までお問い合わせください。
	落としたり、キャビネットが破損したりしたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用すると、火災・感電・けがの原因となります。点検・修理については、弊社営業部までお問い合わせください。
	内部に水や異物が入ったら、すぐに電源プラグをコンセントから抜く そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。点検・修理については、弊社営業部までお問い合わせください。

機器の接続について

 指示	本体と周辺機器との接地電位差により感電、もしくは機器の破損が発生する場合があります。機器間をケーブルで接続する際は、長距離伝送接続なども含めて、関係するすべての機器の電源プラグをコンセントから抜いてください。各機器の信号・制御ケーブルを接続し、終了した後に各機器の電源プラグをコンセントに接続してください。
--	---



注意

 禁止	温度の高い場所に置かない 直射日光が当たる場所や温度の高い場所に置くと火災の原因になります。
	湿気・油煙・埃の多い場所に置かない 加湿器のそばや埃の多い場所などに置くと、火災・感電の原因になります。
	通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。
	機器の上に重いものを置かない 倒れたり落ちたりしてけがの原因になります。
	コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因になります。
	本体付属の AC アダプタまたは電源コード以外のものは使用しない 不適合により、火災や感電の原因になります。本体付属の AC アダプタまたは電源コードは 100 V 系国内専用です。海外など 200 V 系でご使用になる場合は、弊社営業部までお問い合わせください。
 ぬれ手禁止	ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因になります。
 指示	温度と湿度の使用・保存範囲を守る 範囲を超えて使用を続けた場合、火災や感電の原因になります。
	他の機器と接続するときは、接続する機器の電源を切る 火災や感電の原因になります。
 プラグを抜く	長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く 万一故障したとき、火災の原因になります。
	お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く 感電の原因になります。

設置についてのお願い

● ラックマウント製品の場合

 指示	EIA 相当のラックにマウントしてください。その際には上下に空冷のための隙間を空けるよう考慮してください。また、安全性を高めるため前面のマウント金具と併用して L 型のサポートアングルなどを取り付けて、機器全体の質量を平均的に支えるようにしてください。
--	--

● ゴム足付きの製品の場合

 指示	ゴム足を取り外した後にネジだけをネジ穴に挿入することは絶対にお止めください。内部の電気回路や部品に接触し、故障の原因になります。再度ゴム足を取り付ける場合は、付属のゴム足とネジ以外は使用しないでください。
--	--

● 海拔について

 指示	海拔 2,000 m 以上の場所に設置しないでください。 部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になる場合があります。
--	---

装置を持ち上げる場合、膝を伸ばしたままで腰を曲げて持ち上げる動作は腰への負担が非常に強く危険です。

膝を曲げ、腰を十分に落としてから、身体を装置に近づけ身体全体で持ち上げるようにしてください。

無理な姿勢で持ち上げると、怪我や装置の破損の原因となります。

また、重量により複数人数で作業を行なってください。



20kg以上



30kg以上



50kg以上

目次

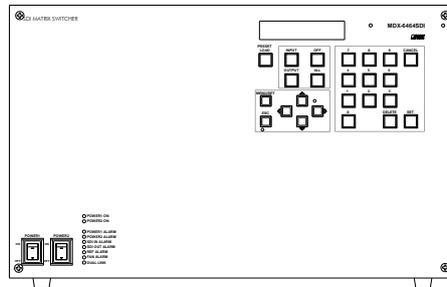
1	同梱物の確認	10
2	製品概要	11
3	特長	11
4	各部の名称とはたらき	12
4.1	フロントパネル	12
4.2	リアパネル	14
5	設置	16
6	メニュー	17
6.1	メニュー一覧	17
6.2	メニュー操作	20
7	基本操作	21
7.1	入出力チャンネル切り換え	21
7.2	プリセットメモリへの操作	25
7.2.1	読み出し（入出力チャンネル設定読み出し）	25
7.2.2	登録（入出力チャンネル設定登録）	27
7.2.3	編集	28
7.3	スタートアップメモリ	30
7.4	ブランキング切換機能	31
7.5	デュアルリンク SDI モード機能	32
7.6	フロントキーのキーロック	33
7.7	ブザー音設定	35
7.8	バージョン情報表示	36
7.9	工場出荷時の設定	36
8	シリアル通信仕様	37
8.1	シリアル通信端子の通信速度設定	38
8.2	通信コマンドの形式設定	39
9	LAN 通信仕様	40
9.1	LAN 通信設定	41
9.1.1	IP アドレス	41
9.1.2	サブネットマスク	42
9.1.3	ゲートウェイアドレス	43
9.1.4	TCP ポート番号	44
9.1.5	MAG アドレス	45
9.2	TCP-IP コネクション数の制限と解決策	46
9.3	WEB ブラウザでの制御	47
9.3.1	WEB ブラウザの起動方法	47
9.3.2	WEB ブラウザのパスワード認証画面設定方法	52
9.3.3	WEB ブラウザ認証用パスワード変更方法	53
9.3.4	WEB ブラウザの自動更新の時間設定	54
10	アラーム出力	55

10.1	電源 1 アラーム	57
10.2	電源 2 アラーム	58
10.2.1	電源 2 監視の有効/無効	59
10.3	SDI 入力キャリア検出アラーム	60
10.3.1	検出設定	60
10.3.2	検出値の取得	61
10.4	SDI 出力キャリア検出アラーム	62
10.4.1	検出設定	62
10.4.2	検出値の取得	63
10.5	基準同期信号検出アラーム	64
10.5.1	検出設定	64
10.5.2	検出値の取得	65
10.6	ファンアラーム	66
10.7	アラーム出力コネクタ仕様	67
10.8	SNMP トラップ送信機能	69
10.8.1	コミュニティ名の設定	70
10.8.2	SNMP の有効/無効の設定	71
10.8.3	トラップ送信のコミュニティ名の設定	74
10.8.4	トラップ送信先 IP アドレスの設定	75
10.8.5	SNMP トラップ送信の有効 / 無効の設定	76
10.8.6	MIB ファイルのダウンロード	81
11	製品仕様	82
12	正常に動作しないときは	83
13	ヒューズについて	83

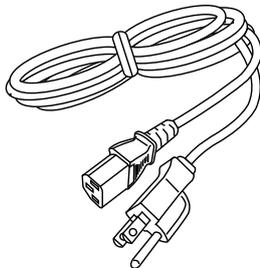
1 同梱物の確認

以下の同梱物がすべてそろっているかご確認ください。

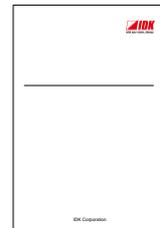
万一、同梱物に不備がありましたら、お手数ですが弊社の本社営業部または各営業所までご連絡ください。



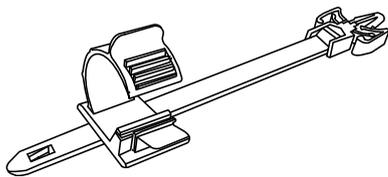
MDX-6464SDI 本体 … 1 台



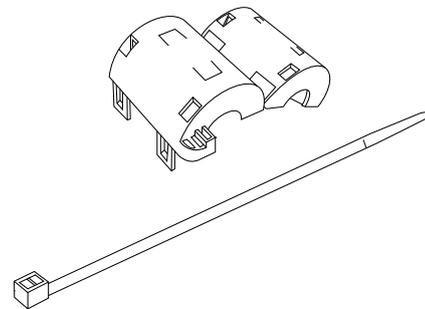
電源コード (1.8 m) … 2 本



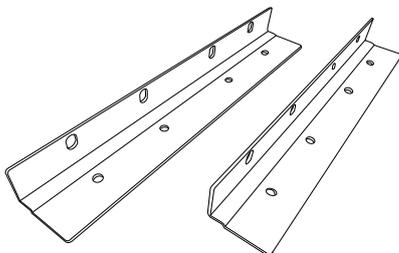
取扱説明書 (本書) … 1 冊



コードクランプ … 2 個



EMI フィルタ … 1 組

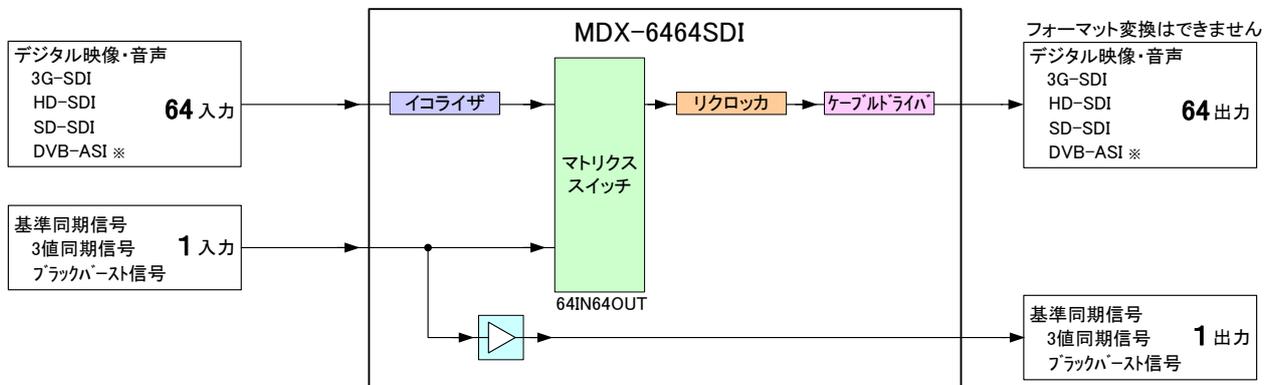


ラック取付金具 … 1 組

【図 1.1】 同梱物の一覧

2 製品概要

MDX-6464SDI は、入力 64 系統・出力 64 系統の 3G-SDI、HD-SDI、SD-SDI および DVB-ASI 対応の SDI マトリクススイッチャです。



※ DVB-ASIは、基準同期信号によるブランキング切替機能には対応していません。

[図 2.1] ブロック図

3 特長

■SDI 入出力

- ・ 入力信号補償機能
- ・ リクロック機能
- ・ 出力信号のケーブルドライバ機能
- ・ 基準同期信号によるブランキング切替機能 (SMPTE RP168 : 2009 準拠) ※DVB-ASI は非対応
- ・ 3G / HD / SD-SDI 混在入力で フルマトリクスが可能 (フォーマット変換はできません)
- ・ デュアルリンク HD-SDI のマトリクス切り換えが可能 (デュアルリンク SDI モード時)
- ・ 8 系統単位で入出力数のカスタマイズが可能

■制御

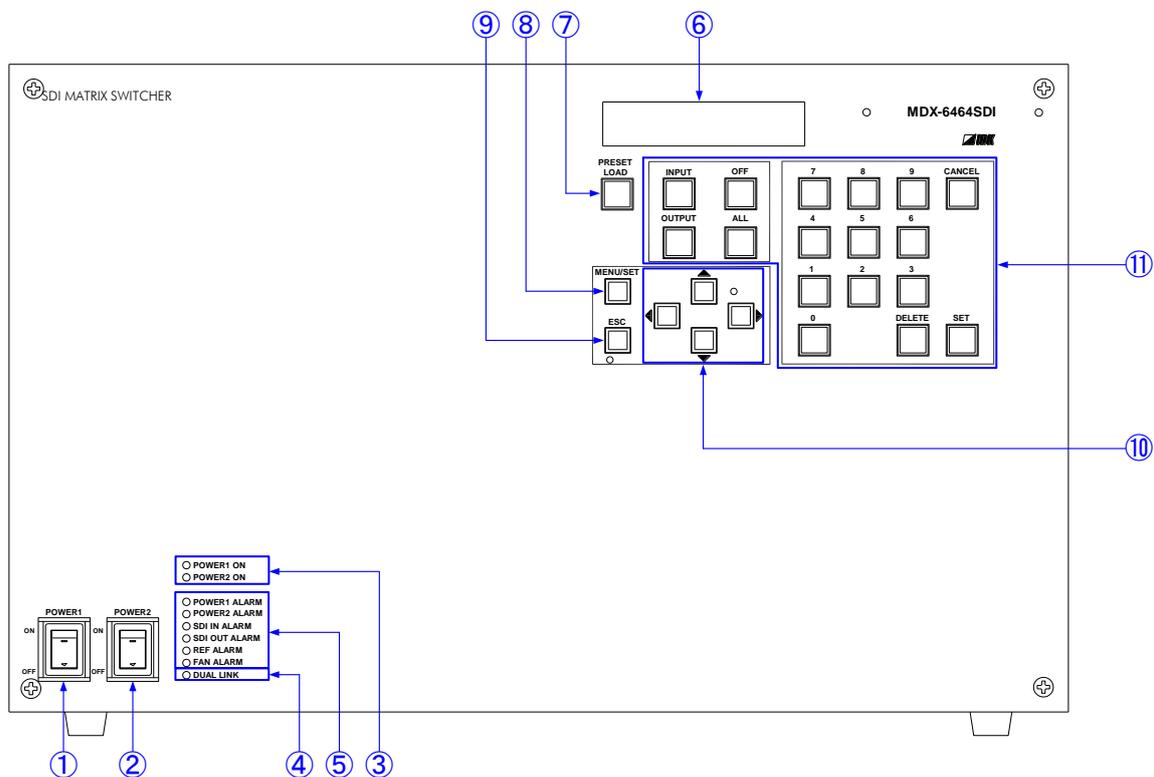
- ・ RS-232C、RS-422、LAN

■その他

- ・ 電源二重化
- ・ 電源、ファンの前面ホットスワップが可能
- ・ 入出力ボード、CPU ボードはラックから外さず交換可能
- ・ アラーム出力および SNMP トラップ送信機能
(電源監視、入出力キャリア監視、基準同期入力監視、ファン監視)
- ・ プリセットメモリ機能 (最大 64 メモリ)
- ・ スタートアップメモリ機能
- ・ ラストメモリ機能
- ・ キーロック機能

4 各部の名称とはたらき

4.1 フロントパネル



[図 4.1] フロントパネル

① 電源スイッチ 1 (POWER1)
本機の電源 1 を ON/OFF します。

② 電源スイッチ 2 (POWER2)
本機の電源 2 を ON/OFF します。

③ 電源用 LED
電源用の LED ランプです。電源スイッチが ON のときに LED が点灯します。

POWER1 ON : 電源 1 用の LED ランプです。電源 1 スイッチが ON のときに LED が点灯します。
POWER2 ON : 電源 2 用の LED ランプです。電源 2 スイッチが ON のときに LED が点灯します。

④ デュアルリンク SDI モード LED (DUAL LINK) ※初期値 : モード OFF
デュアルリンク SDI モードのときに LED が点灯します。

⑤ アラーム LED (ALARM)

アラーム出力の LED ランプです。

POWER1 ALARM : 電源 1 に異常が発生した場合、LED が点滅します。

POWER2 ALARM : 電源 2 に異常が発生した場合、LED が点滅します。

SDI IN ALARM : SDI 入力信号の入力検出異常が発生した場合、LED が点滅します。

SDI OUT ALARM : SDI 出力信号の出力検出異常が発生した場合、LED が点滅します。

REF ALARM : 基準同期信号の入力検出異常が発生した場合、LED が点滅します。

FAN ALARM : ファンに異常が発生した場合、LED が点滅します。

⑥ ディスプレイ

メニューおよび設定を表示します。

電源投入後、本機のイニシャライズ終了まで「CPU Loading」と点滅表示します。

イニシャライズ終了までは約 30 秒かかります。

イニシャライズ終了後、トップ画面では下記の表示がされます。

MDX-64SDI Series	←製品名
64x64 Matrix	←入出力数 (入力数x出力数)

⑦ プリセットメモリ読み出しキー (PRESET LOAD)

プリセットメモリを読み出しモードにします。

PRESET LOAD キーを押すと、プリセットメモリ読み出しモードになります。

プリセットメモリ読み出しモード : PRESET LOAD キーLED 点灯

⑧ メニュー表示/決定キー (MENU/SET)

メニューをディスプレイに表示します。また、設定の決定をします。

⑨ エスケープキー (ESC)

メニュー設定を終了します。

⑩ 十字キー (▲, ▼, ◀, ▶)

メニューの切り換え、カーソルの移動、設定値の変更をします。

⑪ オペレーションキー (0~9, INPUT, OFF, OUTPUT, ALL, DELETE, CANCEL, SET)

オペレーションキーは入出力チャンネルの設定時に使用します。

テンキー0~9 : 入出力チャンネル設定モード、プリセットメモリ読み出しモードの数字入力に使用します。

INPUT : 入出力チャンネル設定モードになります。

カーソルを IN 側に移動させます。

OFF : 入出力チャンネル設定モードで入力チャンネルを OFF (無信号) にします。

OUTPUT : 入出力チャンネル設定モードになります。

カーソルを OUT 側に移動させます。

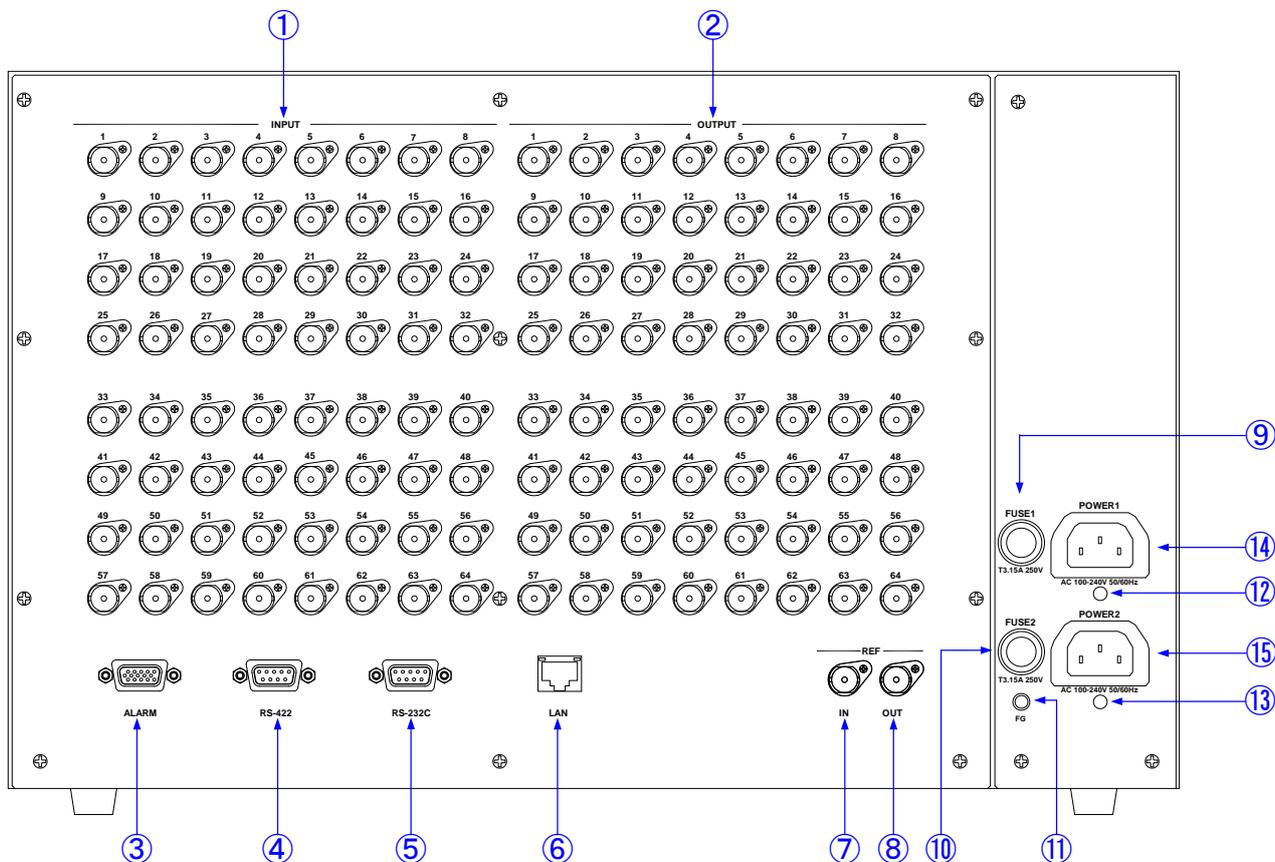
ALL : 入出力チャンネル設定モードで出力チャンネルを全選択にします。

DELETE : 入出力チャンネル設定モード、プリセット読み出しモードで入力した番号を削除します。

CANCEL : 入出力チャンネル設定モード、プリセット読み出しモードを終了します。

SET : 入出力チャンネル設定モード、プリセット読み出しモード時に設定値の決定をします。

4.2 リアパネル



【図 4.2】 リアパネル

① SDI 信号入力コネクタ (INPUT1 ~ INPUT64)

SDI 信号を入力します。

※ 8 系統単位での入力数をカスタマイズした場合は、チャンネル数はカスタマイズした入力数になります。

② SDI 信号出力コネクタ (OUTPUT1 ~ OUTPUT64)

SDI 信号を出力します。

※ 8 系統単位での出力数をカスタマイズした場合は、チャンネル数はカスタマイズした出力数になります。

③ アラーム出力コネクタ (ALARM)

本機の異常をアラーム出力します。

④ RS-422 コネクタ (RS-422)

RS-422 による外部制御に使用します。

⑤ RS-232C コネクタ (RS-232C)

RS-232C による外部制御に使用します。

⑥ LAN コネクタ (LAN)

LAN による外部制御に使用します。

- ⑦ 基準同期信号入力コネクタ (REF IN)
基準同期信号に同期した入出力チャンネルのブランキング切り換えに使用します。
- ⑧ 基準同期信号ループスルーコネクタ (REF OUT)
基準同期信号入力コネクタに入力された基準同期信号をスルー出力します。
(75 Ωオートターミネーション)
※ 電源が ON の時は、アンプして出力します。電源が OFF の時は、入力された信号がそのまま出力されます。
- ⑨ 電源 1 ヒューズホルダ (FUSE1)
電源 1 用ヒューズを入れるためのホルダです。
- ⑩ 電源 2 ヒューズホルダ (FUSE2)
電源 2 用ヒューズを入れるためのホルダです。
- ⑪ フレームグラウンド (FG)
屋内のアース端子と接続します。
- ⑫ 電源 1 コードクランプ用止め穴
電源コードの抜けを防止するためのコードクランプ用の止め穴です。
付属のコードクランプで電源コードを固定してください。
- ⑬ 電源 2 コードクランプ用止め穴
電源コードの抜けを防止するためのコードクランプ用の止め穴です。
付属のコードクランプで電源コードを固定してください。
- ⑭ 電源 1 コネクタ (POWER1) (AC100 ~ 240V)
電源 1 用コネクタです。
付属の電源コードを接続します。
- ⑮ 電源 2 コネクタ (POWER2) (AC100 ~ 240V)
電源 2 用コネクタです。
付属の電源コードを接続します。

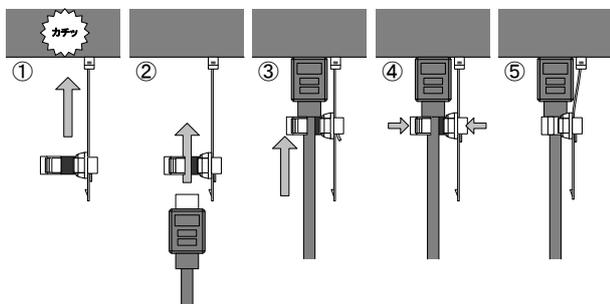
5 設置

本機には様々な種類の入出力コネクタを搭載していますが、ケーブルを接続する際は、コネクタ形状が一致していることを確認した上で、間違えないように接続してください。コネクタ形状の異なるケーブルを無理に接続しようとすると、本機のコネクタおよびケーブルを破損する恐れがあり、そのまま電源を投入すると本機および接続した機器が故障することがあります。またケーブルを接続する際は、ケーブルを奥までしっかりと挿入し、ケーブルにストレスを与えないように配線してください。

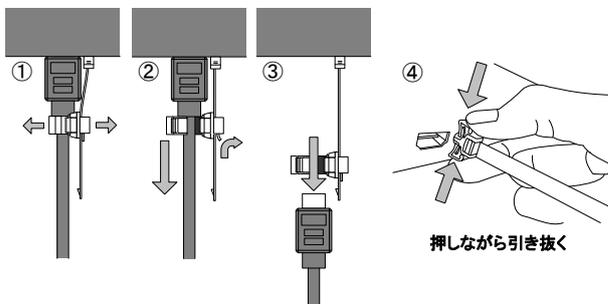
なお、電源コードにはロック機構がありませんが、付属のコードクランプを使用することで、抜け防止が可能です。

■電源コードの固定方法

コードクランプを使った
HDMIケーブルの固定方法



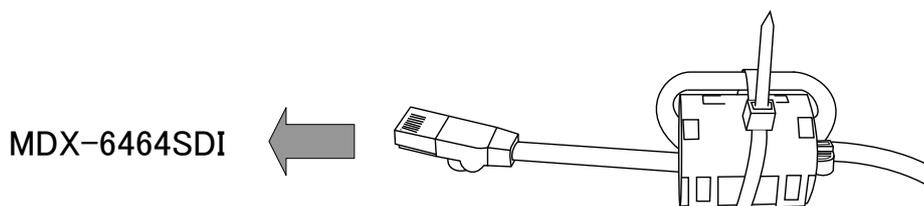
HDMIケーブルと
コードクランプの取り外し方法



[図 5.1] コードクランプの取り付け方法

■LAN ケーブルの接続

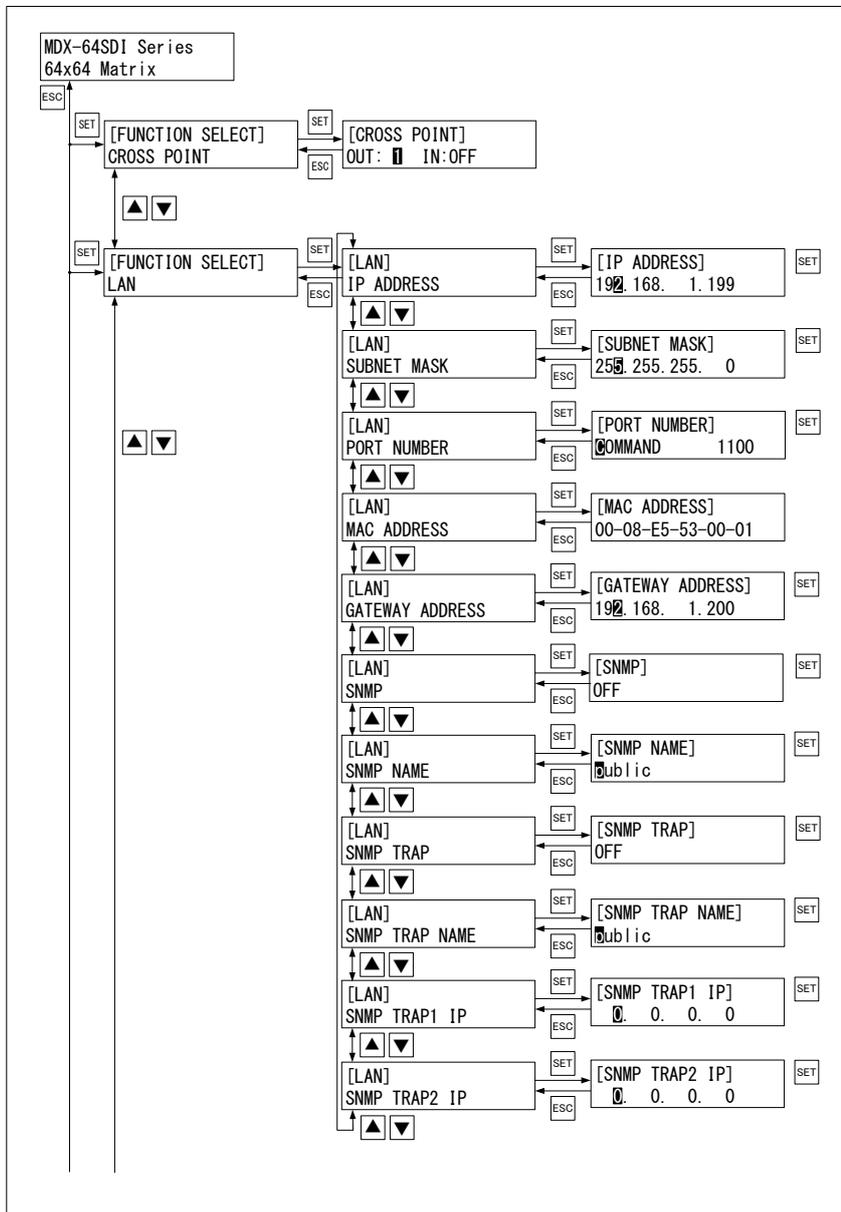
この装置は VCCI クラス A 情報技術装置です。VCCI 規格に適合させるため、LAN ケーブルを接続する前に、本機に付属する EMI フィルタ(フェライトコア)を LAN ケーブルに取り付けてください。位置はなるべく本機に近い部分に取り付けます。

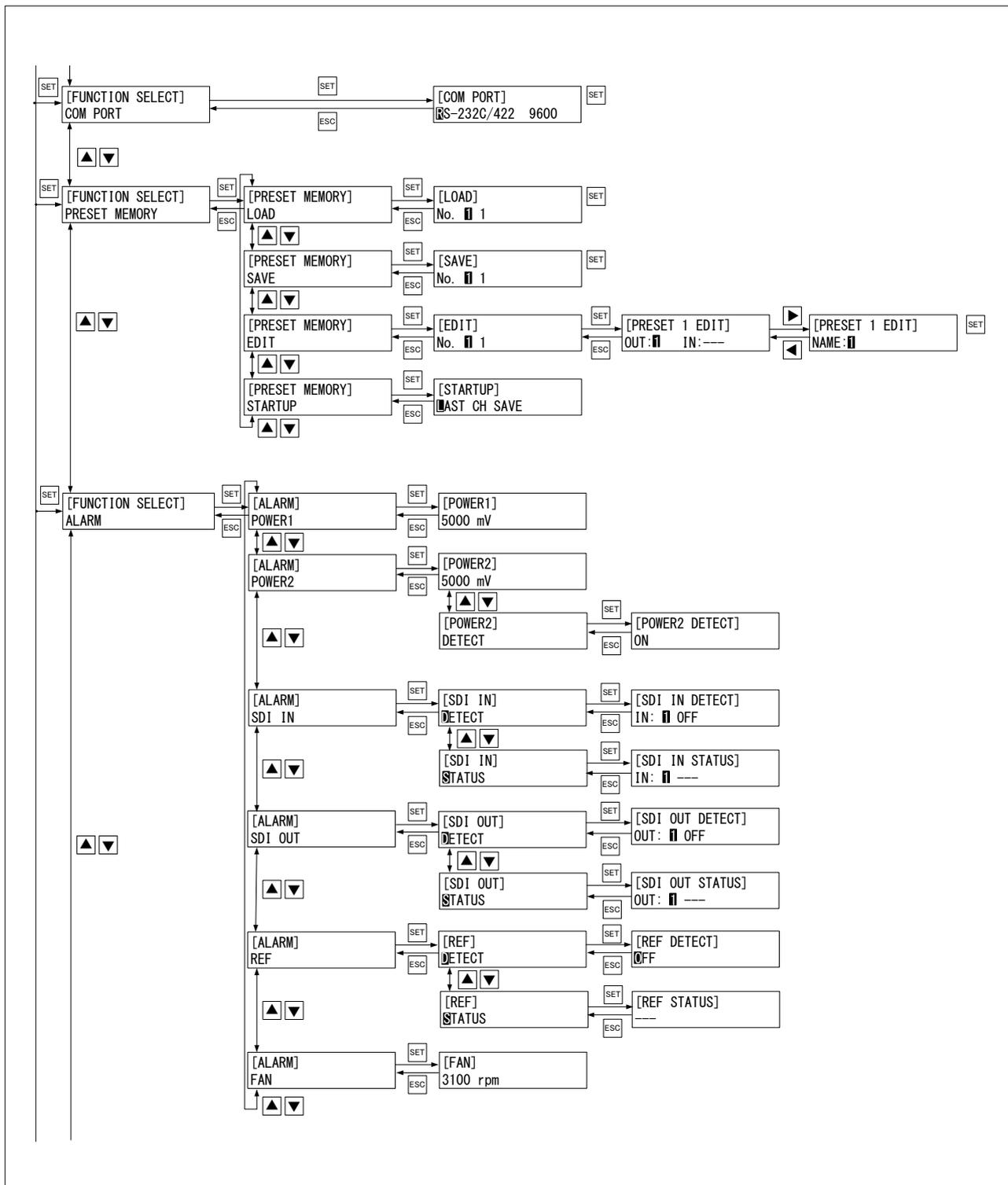


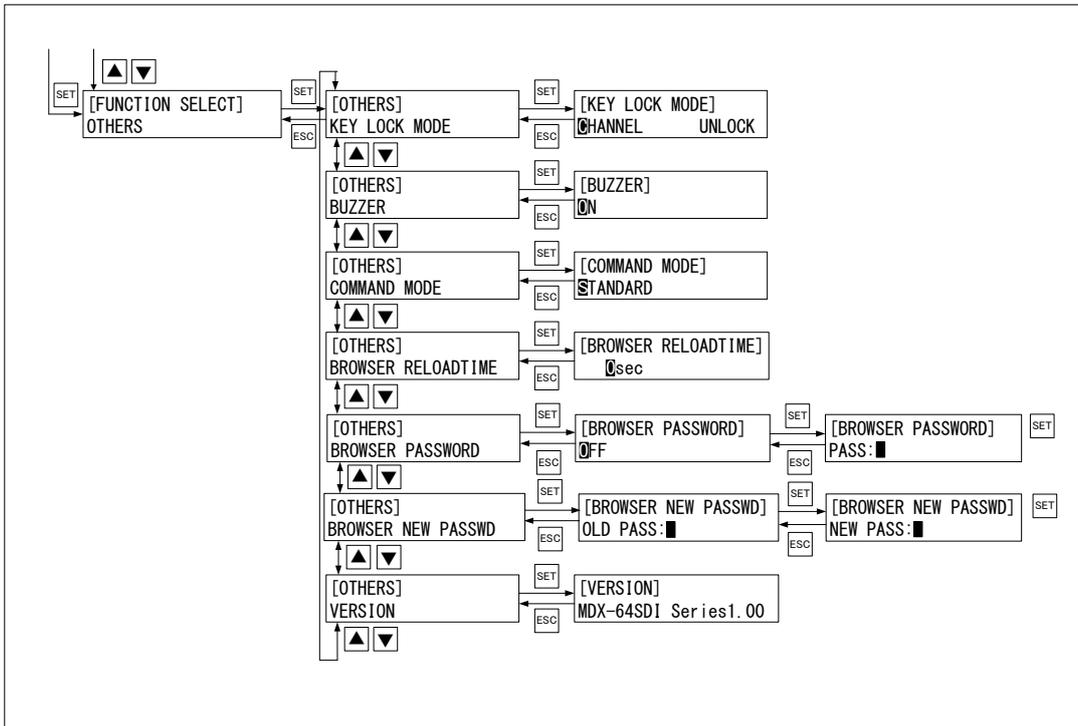
[図 5.2] EMI フィルタの取り付け方法

6 メニュー

6.1 メニュー一覧







[図 6.1] メニュー一覧

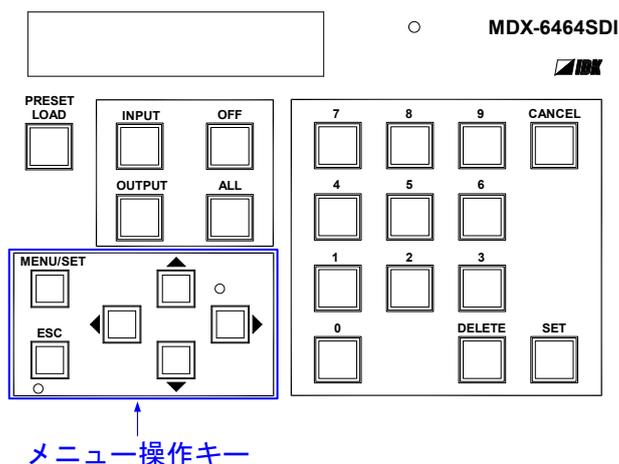
6.2 メニュー操作

メニュー操作は設定項目ごとの階層メニューになっており、図 5.1 の左からメインメニュー、サブメニューおよび設定画面になります。メインメニューおよびサブメニューは▲、▼キーで選択することが可能です。

メインメニュー→サブメニュー→設定画面は MENU/SET キーで移行し、設定画面→サブメニュー→メインメニューは ESC キーで戻ることができます。

設定画面では▲、▼、◀、▶キーでカーソルの移動や設定を行なうことができ、設定した値は操作後に自動的に記憶され、次回電源投入時は前回の設定で起動します。

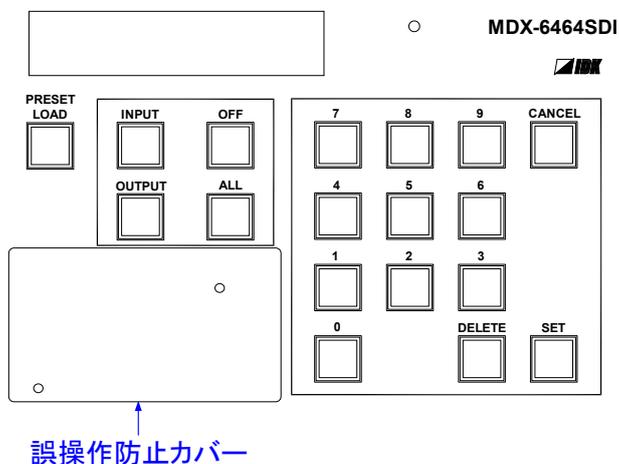
※入力可能なメニュー操作キーはキーLED が点灯します。



[図 6.2.1] メニュー操作キーとディスプレイ

- MENU/SET キー : メニュー表示、設定値の決定をします。
- ESC キー : メニューから抜けます。
- ▲、▼キー : メニューの切り換え、設定値の変更をします。
- ◀、▶キー : カーソルを移動します。

オプションでメニュー操作キーの誤操作防止カバーを用意しておりますので、必要な場合は弊社の本社営業部または各営業所までお問い合わせください。

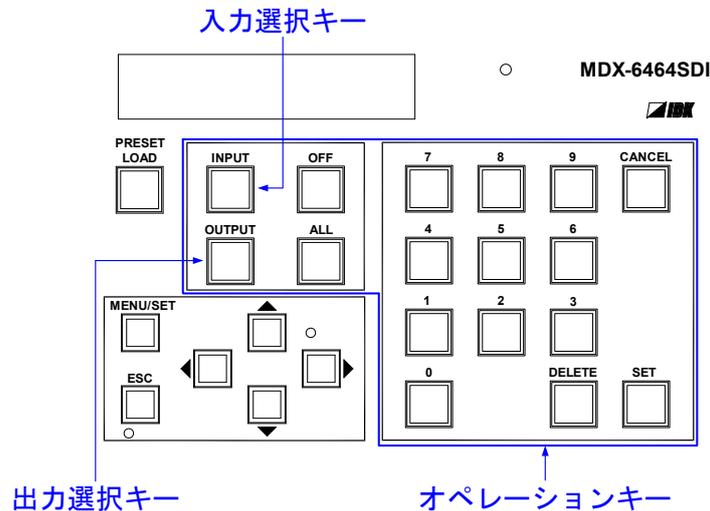


[図 6.2.2] 誤操作防止カバー

7 基本操作

7.1 入出力チャンネル切り換え

入出力チャンネルの設定はオペレーションキーにより設定します。



[図 7.1] 入出力チャンネル選択キー

■入出力チャンネル設定モード LED 表示状態

入出力チャンネル設定モード：INPUT キーか OUTPUT キーのキーLED 点灯

■入出力チャンネル設定モードのキー割り当て

- INPUT キー：入力チャンネル設定状態にします。
カーソルを INPUT 側に移動させます。
- OFF キー：入力 OFF を選択します。
- OUTPUT キー：出力チャンネル設定状態にします。
カーソルを OUTPUT 側に移動させます。
- ALL キー：全出力を選択します。
- 0~9 キー：入出力チャンネル番号 1~64 を入力します。
- SET キー：入出力チャンネル設定を実行します。
- DELETE キー：入出力チャンネル番号の入力訂正に使用します。
- CANCEL キー：入出力チャンネル設定モードを終了し、トップ画面に戻ります。

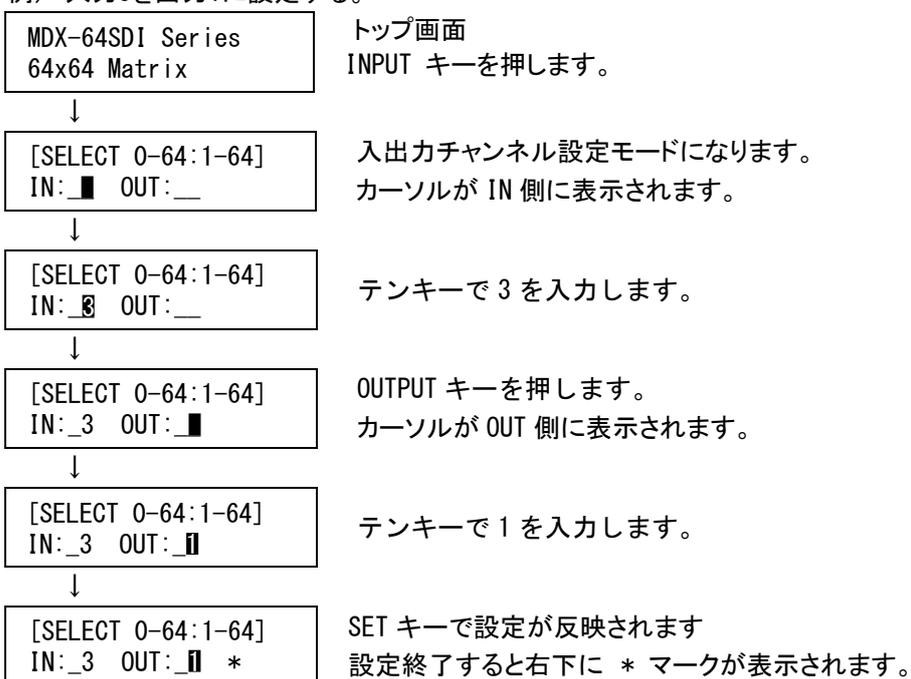
■オペレーションキーによる入出力設定

入出力チャンネルの設定は以下の手順で操作を行ってください。

- ・ トップ画面が表示された状態でINPUTキーかOUTPUTキーを押し、入出力チャンネル設定モードにします。
入出力チャンネル設定モードになるとINPUTキーかOUTPUTキーのキーLEDが点灯します。
- ・ INPUTキーかOUTPUTキーを押し、カーソルを移動します。
- ・ テンキーで入出力チャンネル番号を入力します。
入出力チャンネルの設定番号は、ディスプレイに表示されます。
- ・ 設定の決定はSETキーにより実行されます。

(1) 入力チャンネルから設定する場合

例) 入力3を出力1に設定する。



※ 入力チャンネルで OFF キーを押すと OFF (無信号) 設定になります。

※ テンキーで入力チャンネルに 0 を入力した場合、OFF (無信号) 設定と認識します。

(2) 入力チャンネルをOFF(無信号)に設定する場合

※ 入力チャンネルから最初に設定する場合、INPUT キーを省略して、最初に OFF キーを押しても OFF (無信号) が設定可能です。

例) 出力 3 を OFF(無信号)に設定します。

MDX-64SDI Series 64x64 Matrix	トップ画面 OFF キーを押します。
↓ OFF キー	
[SELECT 0-64:1-64] IN:0 F OUT: _	入出力チャンネル設定モードになります。 カーソルが IN 側に表示され、OFF が表示されます。
↓ OUTPUT キー	
[SELECT 0-64:1-64] IN:OFF OUT: _	OUTPUT キーを押します。 カーソルが OUT 側に表示されます。
↓ 3 キー	
[SELECT 0-64:1-64] IN:OFF OUT: 3	テンキー で 3 を入力します。
↓	
[SELECT 0-64:1-64] IN:OFF OUT: 3 *	SET キーで設定が反映されます。 設定終了すると右下に * マークが表示されます。

(3) 出力チャンネルから設定する場合

例) 出力13に出力1を設定する。

MDX-64SDI Series 64x64 Matrix	トップ画面 OUTPUT キーを押します。
↓	
[SELECT 0-64:1-64] IN: _ OUT: _	入出力チャンネル設定モードになります。 カーソルが OUT 側に表示されます。
↓	
[SELECT 0-64:1-64] IN: _ OUT: 13	テンキーで 13 を入力します。
↓	
[SELECT 0-64:1-64] IN: _ OUT: 13	INPUT キーを押します。 カーソルが IN 側に表示されます。
↓	
[SELECT 0-64:1-64] IN: 1 OUT: 13	テンキーで 1 を入力します。
↓	
[SELECT 0-64:1-64] IN: 1 OUT: 13 *	SET キーで設定が反映されます。 設定が完了すると右下に * マークが表示されます。

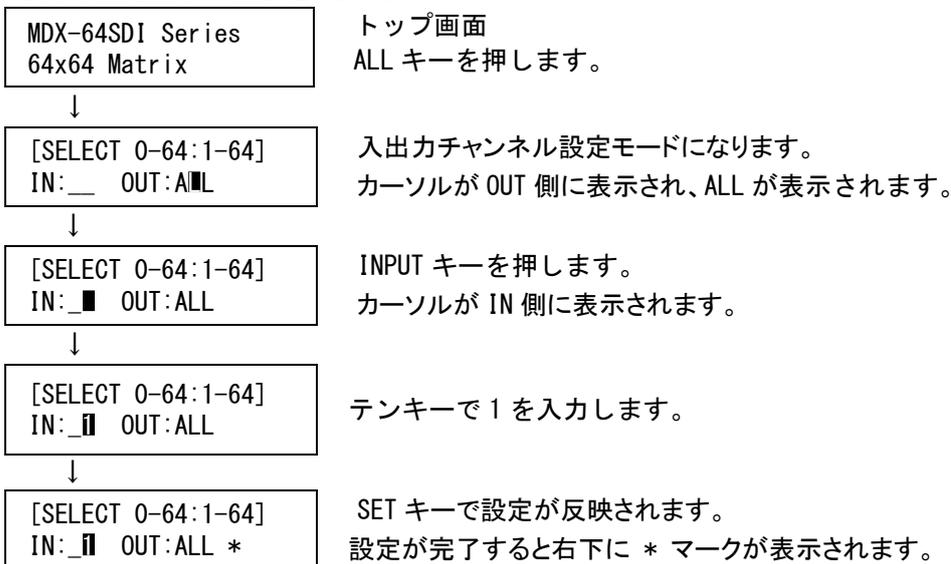
※ 出力チャンネルで ALL キーを押すと全出力になります。

(4) チャンネルオール機能を設定する場合

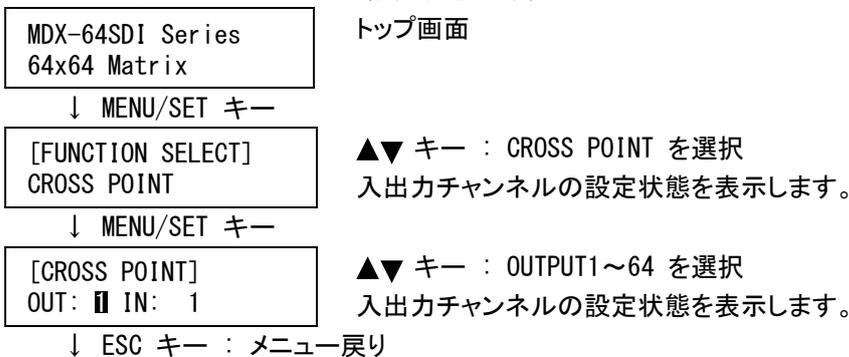
チャンネルオール機能は、指定された1入力を全出力チャンネルに出力する機能です。

※ 出力チャンネルから最初に設定する場合、OUTPUT キーを省略して、最初に ALL キーを押してもチャンネルオール機能が設定可能です。

例) 入力 1 を全出力に設定します。



■メニューによる入出力チャンネル設定状態の確認



■コマンド

- @IOS 入出力チャンネル切替
- @GCP 入出力チャンネル取得
- @SAO 全チャンネル出力設定
- @SSC 入出力チャンネル ストレート設定

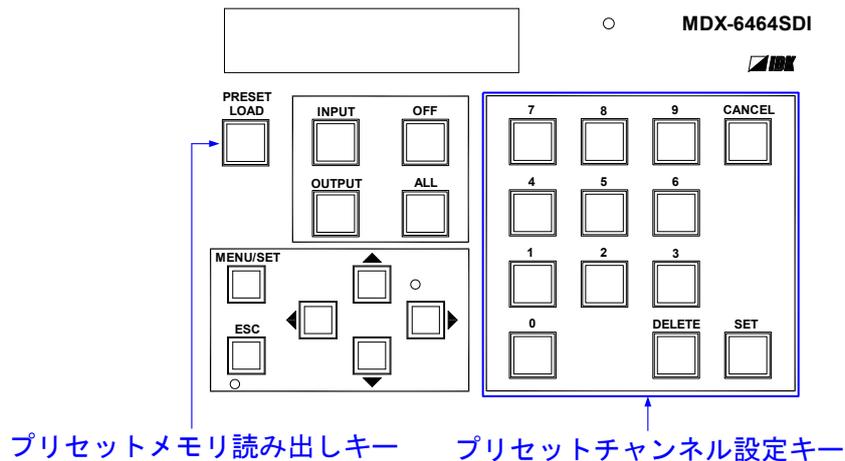
7.2 プリセットメモリへの操作

7.2.1 読み出し（入出力チャンネル設定読み出し）

プリセットメモリ読み出しモードは、登録されているプリセットメモリを読み出し、入出力チャンネルを設定します。

PRESET LOAD キーを押すと、プリセットメモリ読み出しモードになります。

プリセットメモリは、プリセットメモリ 1～64 の最大 64 個の読み出しが可能です。



[図 7.2.1] プリセットメモリ読み出し設定キー

■ プリセットメモリ読み出しモード LED 表示状態

プリセットメモリ読み出しモード : PRESET LOAD キーLED 点灯

■ プリセットメモリ読み出し設定モードのキー割り当て

PRESET LOAD キー : プリセットメモリ読み出しモードにします。

0～9 キー : プリセットメモリ番号 1～64 を入力します。

SET キー : プリセットメモリの読み出しを実行します。

DELETE キー : プリセットメモリ番号の入力訂正に使用します。

CANCEL キー : プリセットメモリ読み出しモードを終了し、トップ画面に戻ります。

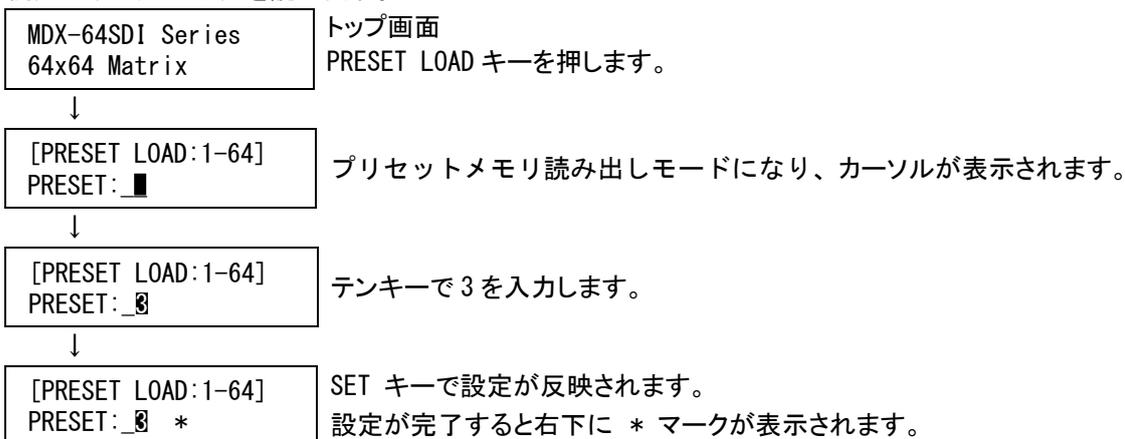
■プリセットメモリ読み出しモードの設定

プリセットメモリ読み出しモードの設定は以下の手順で操作を行ってください。

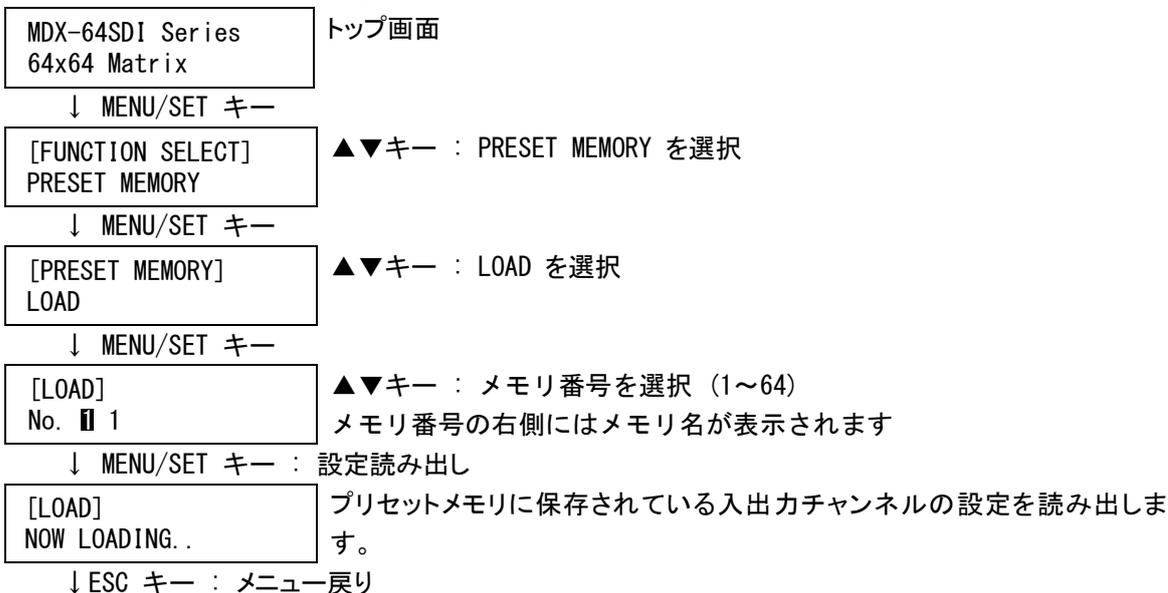
- ・ トップ画面が表示された状態でPRESET LOADキーを押し、プリセットメモリ読み出しモードにします。プリセットメモリ読み出しモードになるとPRESET LOADキーのキーLEDが点灯します。
- ・ テンキーでプリセットメモリ番号を入力します。プリセットメモリ読み出し番号はディスプレイに表示されます。
- ・ 設定の決定はSETキーにより実行されます。

(1) フロントキーからプリセットメモリを読み出す場合

例) プリセットメモリ3を読み出す。



■メニューからプリセットメモリ読み出し



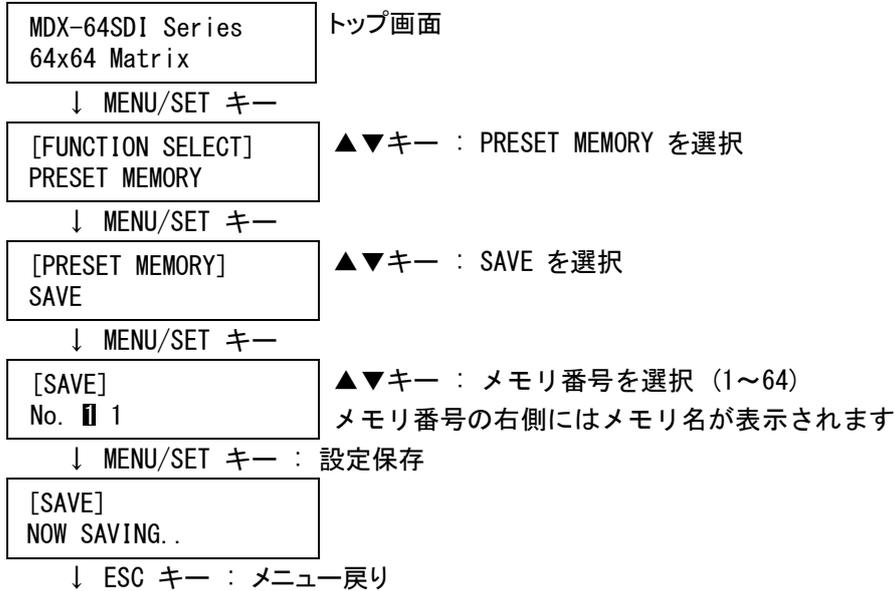
■コマンド

@RPM プリセットメモリの読み出し (入出力チャンネル設定読み出し)

7.2.2 登録（入出力チャンネル設定登録）

プリセットメモリ登録は、入出力チャンネルの状態をプリセットメモリに登録します。
プリセットメモリの登録は、最大 64 個まで登録が可能です。

■メニューからのプリセットメモリ登録



※ 注意：ディスプレイに「NOW SAVING..」と表示されている間は本機の電源を切らないでください。
設定情報を失う可能性があります。

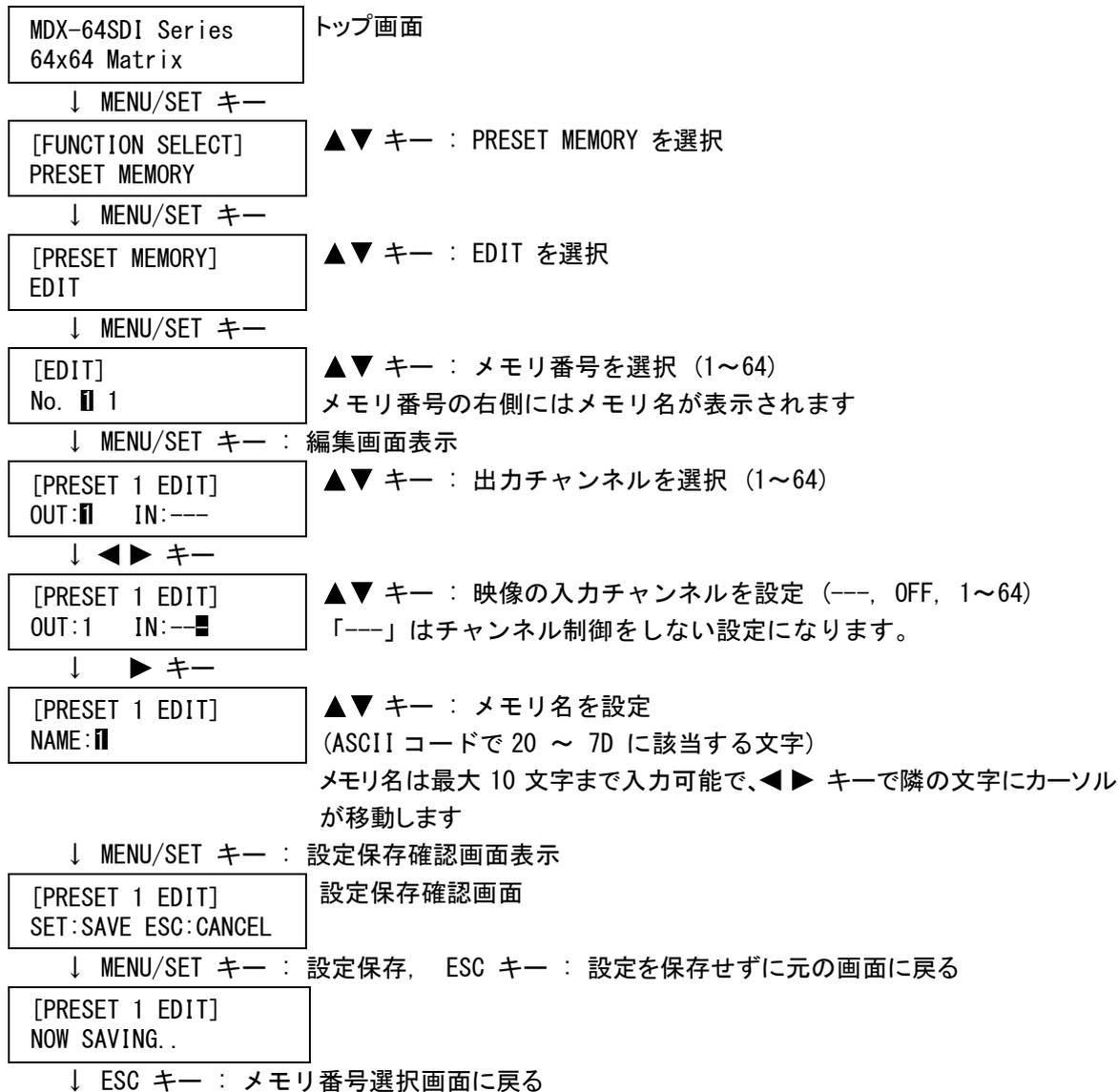
■コマンド

- @SPM プリセットメモリの上書き保存（入出力チャンネル設定保存）
- @GCM プリセットメモリの設定取得（入出力チャンネル設定の取得）

7.2.3 編集

既に登録してあるプリセットメモリの設定を編集することができます。

■メニューからのプリセットメモリ編集



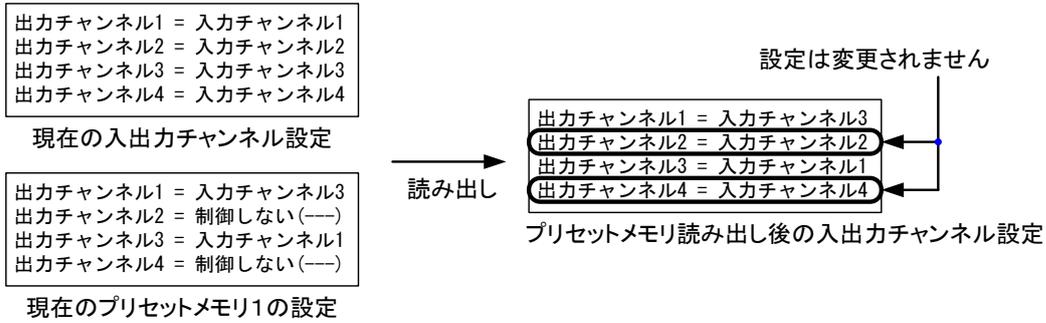
※ 注意 : ディスプレイに「NOW SAVING..」と表示されている間は本機の電源を切らないでください。設定情報を失う可能性があります。

■チャンネル制御をしない設定

プリセットメモリを読み出したときに、チャンネル制御をしない設定した出力チャンネルは、チャンネルの切り換えを行わず、現在の入出力チャンネル設定をそのまま出力します。

メニュー表示では「---」で表示されます。

※すべてのプリセットメモリは、工場出荷時にチャンネル制御を行わない設定が保存されています。



[図 7.2.3] プリセットメモリへの保存

■コマンド

@ECM プリセットメモリの設定編集（入出力チャンネル設定の編集）

@SEM プリセットメモリの引き継ぎ保存（入出力チャンネル設定保存）

7.3 スタートアップメモリ

電源投入時の入出力チャンネルの設定をプリセットメモリ、ラストメモリから選択できます。

- ・プリセットメモリ : PRESET 1 ~ PRESET 64
プリセットメモリに登録された入出力チャンネル状態で起動します。
チャンネル制御を行わない出力チャンネルは OFF に設定されます。
- ・デフォルトチャンネル : LAST CH NO SAVE
入出力チャンネルが全出力 OFF 状態で起動します。
- ・ラストメモリ : LAST CH SAVE ※初期値
最後に電源を切った際の入出力チャンネル状態で起動します。

■メニューによる設定



■コマンド

- @SMU 電源投入時の状態設定
- @GMU 電源投入時の状態取得

7.4 ブランキング切換機能

本機は基準同期信号入力コネクタ (REF IN) に基準同期信号 (ブラックバースト信号または 3 値同期信号) を入力することにより入出力チャンネルのブランキング切り換えが可能です。

ブランキング切り換えを行うには、本機に入力される SDI 信号と本機に入力される基準同期信号の同期が一致している必要があります。

切り換えポイントは SMPTE RP168 : 2009 に準拠します。

※ 注意 : DVB-ASI はブランキング切換機能を使用することができません。

[表 7.4] 基準同期信号一覧

	フォーマット
ブラックバースト信号	720 x 483 i、720x576 i
3 値同期信号	1920 x 1080p、1920 x 1080 i、1280 x 720p

7.5 デュアルリンク SDI モード機能

本機はデュアルリンク SDI 用スイッチャとしても使用可能です。

デュアルリンク SDI モードの場合は、入出力数が半分になります。

デュアルリンク SDI モードの確認は、フロントLEDまたは通信コマンドによる状態取得により可能です。

(注) デュアルリンク SDI モードを ON/OFF に切り換えた場合、プリセットメモリ設定などの入出力にかかわる設定は初期化されます。

工場出荷時の設定にした場合、デュアルリンク SDI モードは OFF に初期化されます。

■デュアルリンクSDIモード設定方法

デュアルリンク SDI モード : CANCEL キーと 8 キーを押した状態で電源投入
 デュアルリンク SDI モード解除 : CANCEL キーと 7 キーを押した状態で電源投入
 または、工場出荷時の設定にする。

(参考) キーは LED の全点灯が消える電源投入 5 秒後まで押し続けてください。

■デュアルリンクSDIモードLED表示状態

デュアルリンク SDI モード : DUAL LINK LED が点灯
 デュアルリンク SDI モード解除 : DUAL LINK LED が消灯 (初期値)

■デュアルリンクSDIモードの入出力チャンネル配置

デュアルリンク入力 1ch	: シングルリンク入力 1ch、2ch
デュアルリンク入力 2ch	: シングルリンク入力 3ch、4ch
	⋮
デュアルリンク入力 31ch	: シングルリンク入力 61ch、62ch
デュアルリンク入力 32ch	: シングルリンク入力 63ch、64ch
デュアルリンク出力 1ch	: シングルリンク出力 1ch、2ch
デュアルリンク出力 2ch	: シングルリンク出力 3ch、4ch
	⋮
デュアルリンク出力 31ch	: シングルリンク出力 61ch、62ch
デュアルリンク出力 32ch	: シングルリンク出力 63ch、64ch

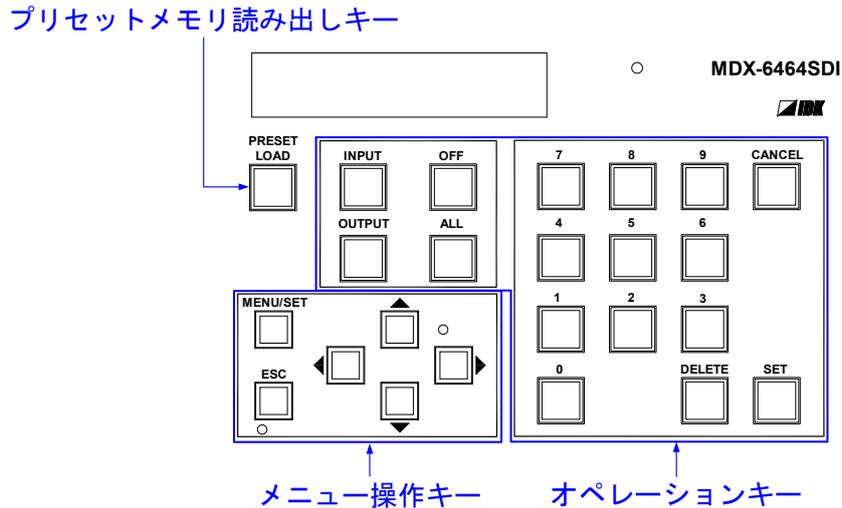
■コマンド

@GDL デュアルリンク SDI モード状態取得

7.6 フロントキーのキーロック

キーロックの ON/OFF を設定します。フロントキーは、「オペレーションキー」、「メニュー操作キー」および「プリセットメモリ読み出しキー」の 3 種類からなり、それぞれのキーロックの ON/OFF を設定します。

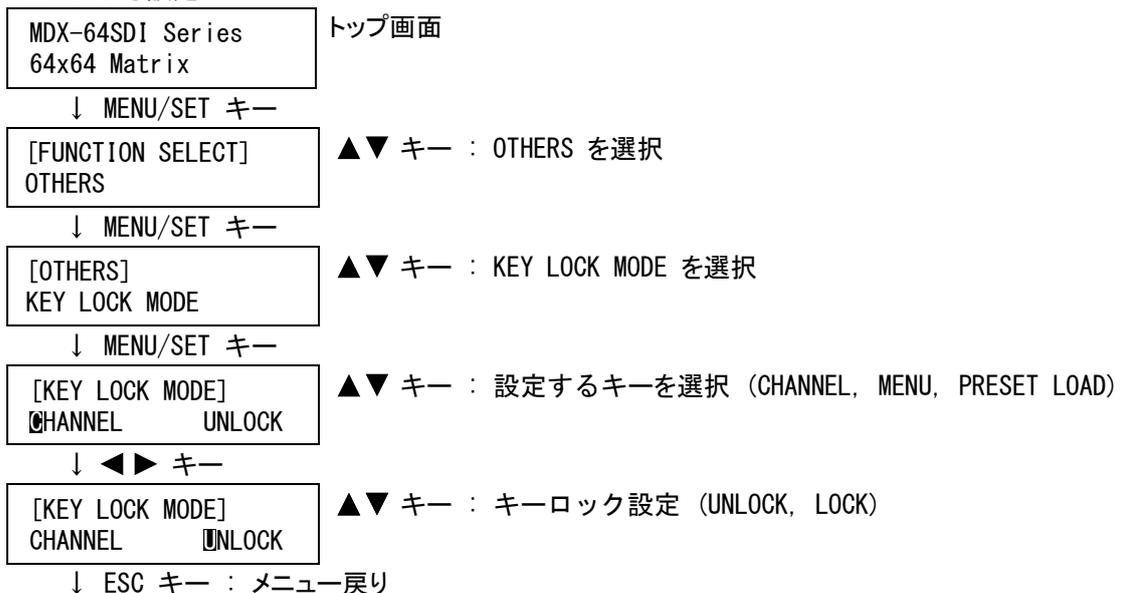
フロントキーのロック状態は不揮発メモリに記憶されるため、再起動後も同じ状態で起動します。なお、「メニュー操作キー」は、キーロック解除を行うため、キーロック設定への操作は可能です。



【図 7.6】 フロントキーの種類

- ・ オペレーションキー : CHANNEL ※初期値 UNLOCK
- ・ メニュー操作キー : MENU ※初期値 UNLOCK
- ・ プリセットメモリ読み出しキー : PRESET LOAD ※初期値 UNLOCK

■メニューによる設定



■コマンド

@SLM キーロックモードの設定

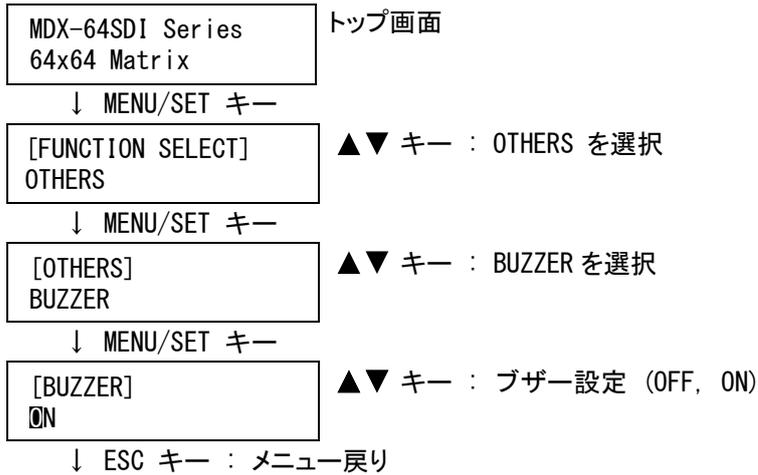
@GLM キーロックモードの取得

7.7 ブザー音設定

ブザー音（キー確認音）の ON/OFF をします。

- ・ブザー音なし : OFF
- ・ブザー音あり : ON ※初期値

■メニューによる設定



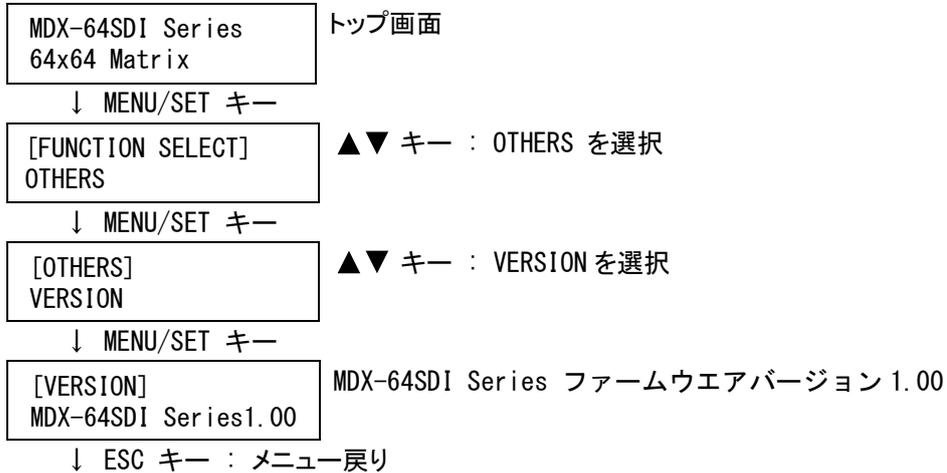
■コマンド

- @SBZ ブザー音設定
- @GBZ ブザー音設定取得

7.8 バージョン情報表示

本機のファームウェアのバージョンを表示します。

■メニューによる設定



■コマンド

@GIV バージョン情報取得

7.9 工場出荷時の設定

ESCキーを押しながら電源を投入すると、機器の状態を工場初期値に戻すことが可能です。ESCキーは長音ブザーが鳴るまで、押し続けてください。長音ブザーが鳴ると初期化が終了し、操作可能になります。

※注意：一度工場初期値に戻すと、初期化する前の設定に戻すことはできませんのでご注意ください。

8 シリアル通信仕様

本機は、RS-232C、RS-422 コネクタを使ったシリアル通信による外部制御が可能です。

※注意 : 電源投入後、本機のインシャライズ終了までは約 30 秒かかります。
その間、通信制御はできません。

[表 7] シリアル通信仕様

準拠規格	RS-232C, RS-422
通信速度	4800, 9600, 19200, 38400 [bps]
データビット長	8 [bit]
パリティチェック	なし
ストップビット	1 [bit]
Xパラメータ	無効
フロー制御	なし
デリミタ	CRLF (復帰+改行, 16 進表記の 0D と 0A)
通信方式	全二重



※フロー制御を行わないため、3 線クロス (RD、TD、GND) ケーブルの使用が可能です。

[図 7.1] RS-232C コネクタ・ケーブル仕様



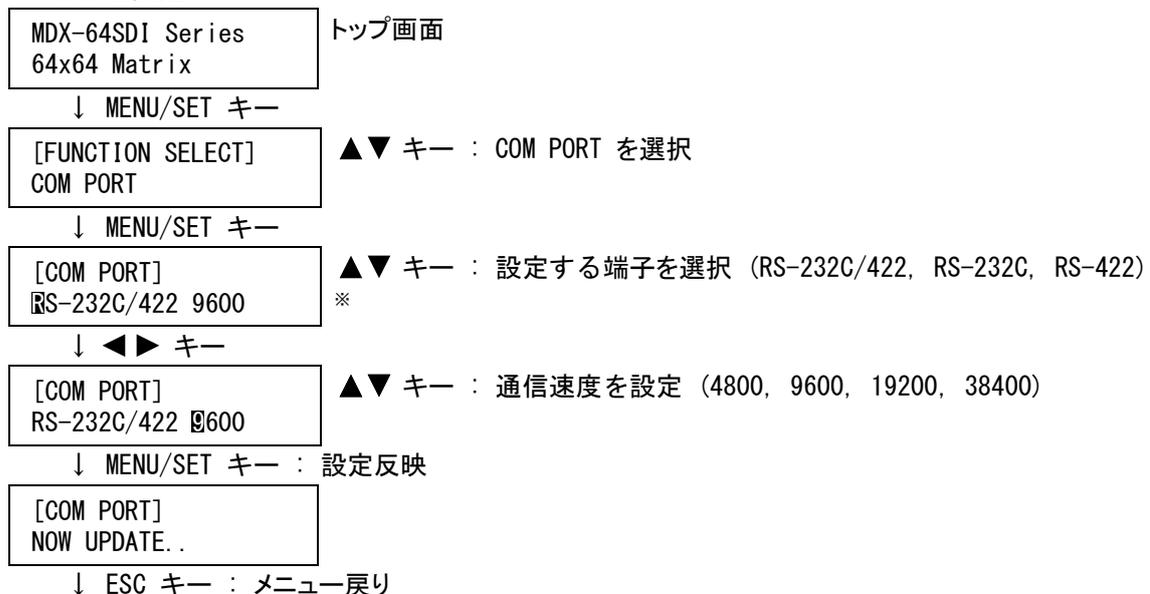
[図 7.2] RS-422 コネクタ・ケーブル仕様

8.1 シリアル通信端子の通信速度設定

シリアル通信端子の通信速度設定をします。通信速度は端子ごとの設定が可能です。

- ・通信速度 : 4800[bps], 9600[bps], 19200[bps], 38400[bps] ※初期値 : 9600[bps]

■メニューによる設定



※注意 : SET キーを押さないと通信速度は変更されません。

※「RS-232C/422」を選択しているときに各端子の設定が異なる場合は、RS-232C の通信速度を表示し、左側に「*」を表示します。このときに「RS-232C/422」を選択しただけでは各端子の通信速度は同じ設定になりません。各端子の通信速度を同じ設定にする場合は、◀, ▶ キーでカーソルを右側に移動し、通信速度を変更してください。「*」が消えたら、各端子の設定が同じになったという意味を表します。

[COM PORT]
RS-232C/422*9600

■コマンド

- @SCT シリアル通信端子 通信速度設定
- @GCT シリアル通信端子 通信速度取得

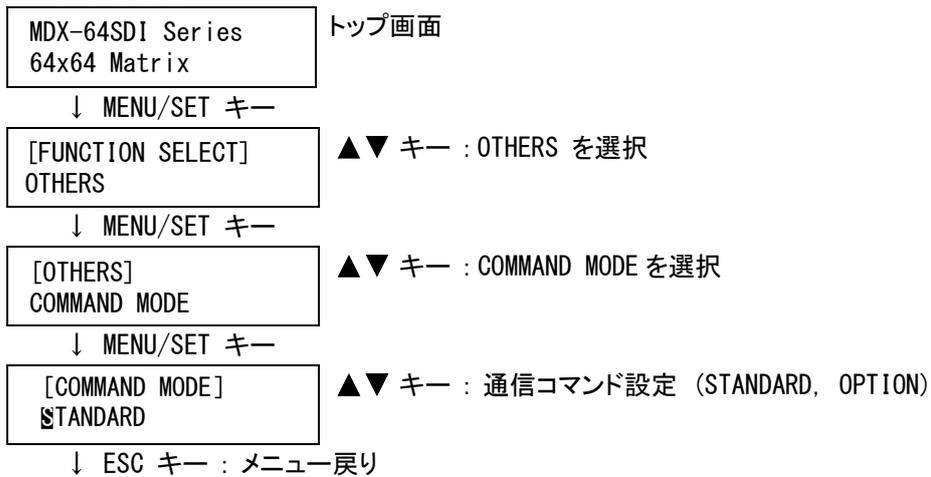
8.2 通信コマンドの形式設定

RS-232C、RS-422 および LAN での通信コマンドの形式を設定します。

- ・本機標準の通信コマンド形式 : STANDARD ※初期値
- ・互換モード通信コマンド形式 : OPTION

※通常は、初期設定の STANDARD にしてください。

■メニューによる設定



■コマンド

なし

9 LAN 通信仕様

本機は LAN による外部制御が可能です。

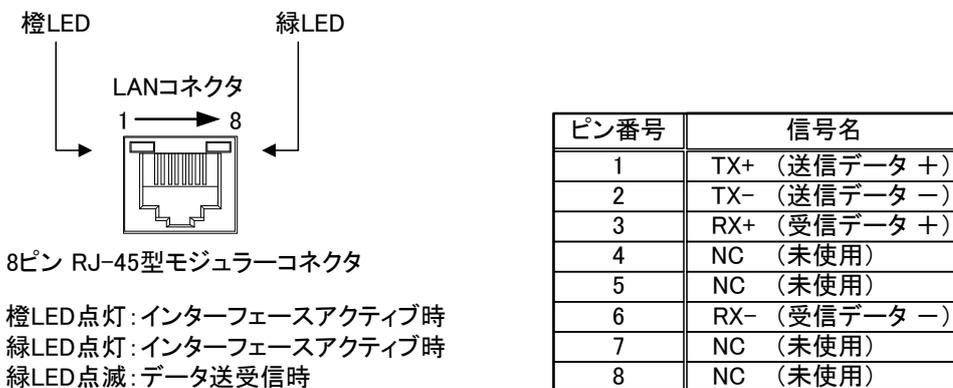
※注意 : 電源投入後、本機のイニシャライズ終了までは約 30 秒かかります。
その間、通信制御はできません。

[表 9.1] LAN 通信仕様

物理層	10BaseT (IEEE802. 3i) / 100BaseTX (IEEE802. 3u) Auto Negotiation, Auto MDI/MDI-X
ネットワーク層	ARP, IP, ICMP
トランスポート層	TCP, UDP ※UDP は SNMP にて使用。 コマンド制御使用ポート : 23, 1100, 6000 ~ 6999 WEB ブラウザ制御 (HTTP) 使用ポート : 80, 5000 ~ 5999 SNMP 使用ポート : 161 (固定) SNMP トラップのポートは動的に割り当てられます。
アプリケーション層	HTTP, SNMP
コネクション数	最大 8 個

※同時に使用することができるコネクション数は最大 8 個です。

コネクション接続後、30 秒以上通信がない場合、コネクションは自動的に切断されます。



ストレートケーブル/クロスケーブルの判別・切り換えを自動的に行なうAuto MDI/MDI-Xに対応していますので、本機とパソコンまたはハブなどとの接続の際、意識せずに接続することが可能です。

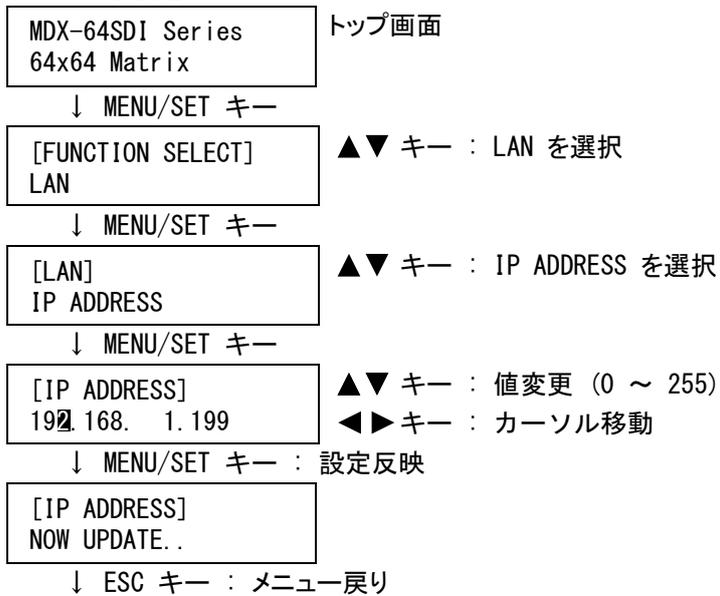
[図 8] LAN コネクタ仕様

9.1 LAN 通信設定

9.1.1 IP アドレス

本機の IP アドレスを設定します。※初期値 192.168.1.199

■メニューによる設定



※注意 : MENU/SET キーを押さないと IP アドレスは変更されません。

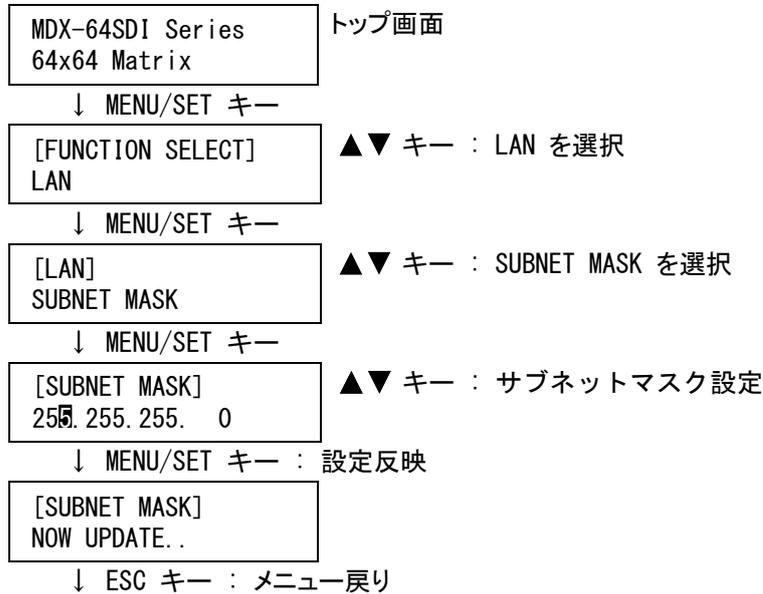
■コマンド

- @SIP IP アドレス設定
- @GIP IP アドレス取得

9.1.2 サブネットマスク

IP アドレスのセグメントを識別させるために、サブネットマスクを設定します。 ※初期値 255. 255. 255. 0

■メニューによる設定



※注意 : MENU/SET キーを押さないとサブネットマスクは変更されません。

■コマンド

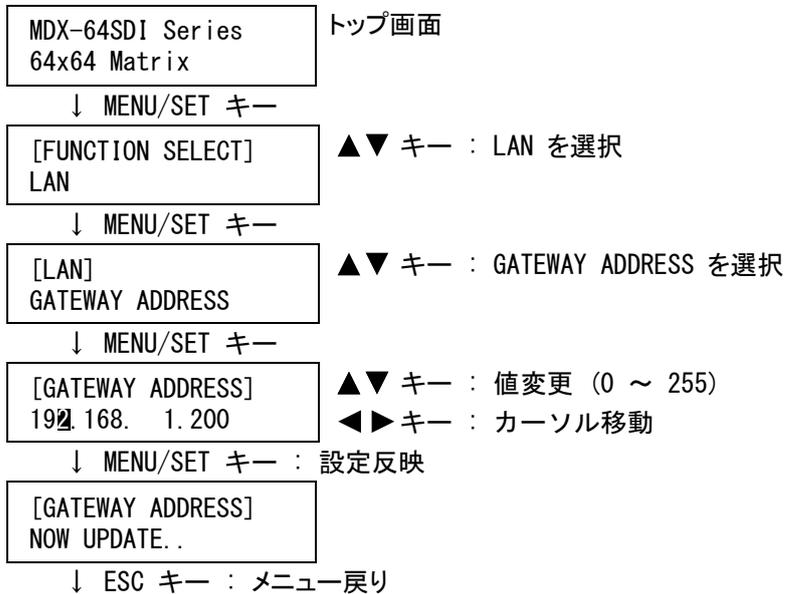
- @SSB サブネットマスク設定
- @GSB サブネットマスク取得

9.1.3 ゲートウェイアドレス

サブネットマスクで設定したセグメントを越えるアクセスを行う場合、ゲートウェイアドレスを設定します。

※出荷時設定 192.168.1.200

■メニューによる設定



※注意 : MENU/SET キーを押さないとゲートウェイアドレスは変更されません。

■コマンド

@SGW ゲートウェイアドレス設定

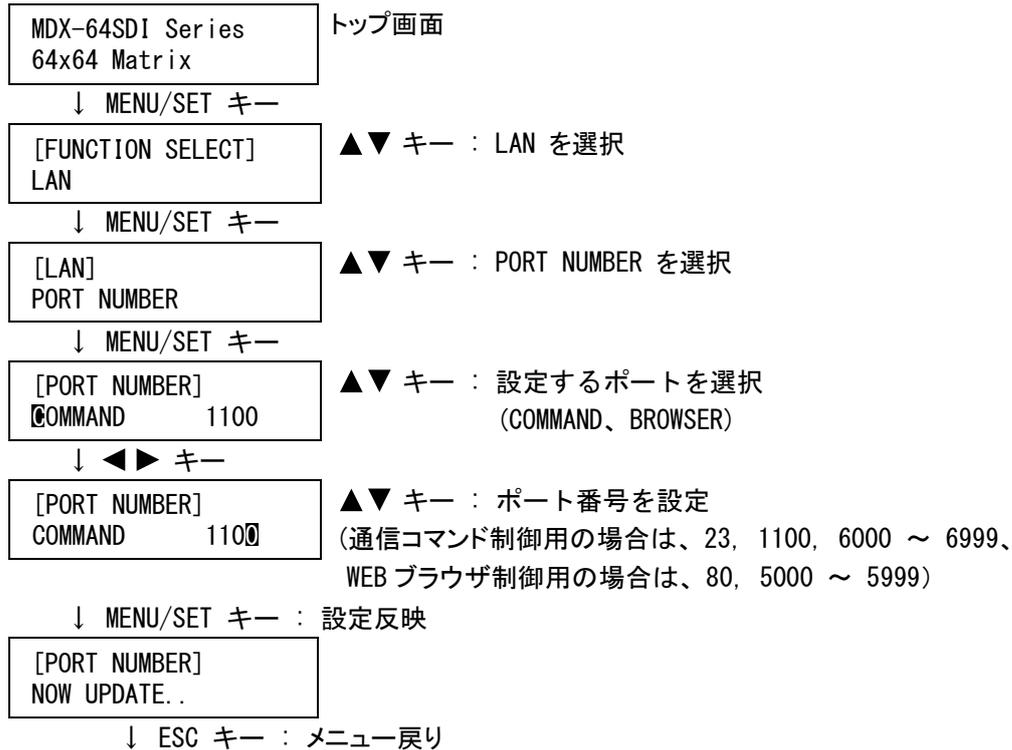
@GGW ゲートウェイアドレス取得

9.1.4 TCP ポート番号

TCP のポート番号を設定します。
ポート番号は通信コマンド制御とブラウザ制御を設定します。

	ポート番号	初期値
通信コマンド制御用 (COMMAND)	23, 1100, 6000 ~ 6999	1100
WEB ブラウザ制御用 (BROWSER)	80, 5000 ~ 5999	80

■メニューによる設定



※注意 : MENU/SET キーを押さないとポート番号は変更されません。

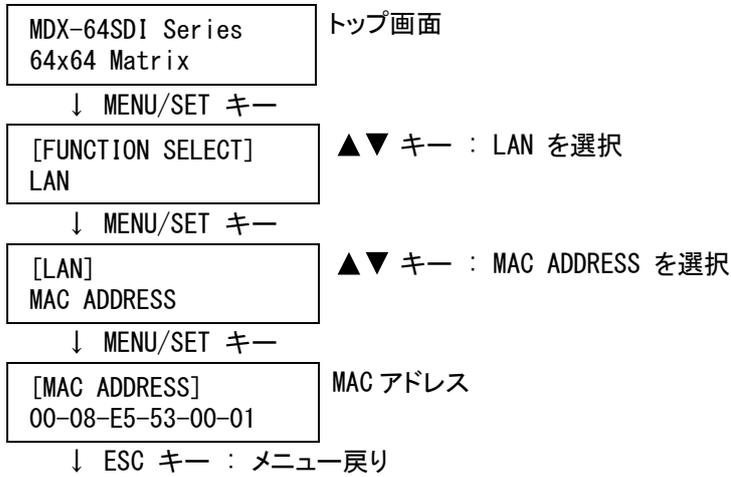
■コマンド

- @SLP TCP ポート番号設定
- @GLP TCP ポート番号取得

9.1.5 MAC アドレス

本機の MAC アドレスを表示します。

■メニューによる確認



■コマンド

- @GMA MAC アドレス取得(10 進数)
- @GMC MAC アドレス取得(16 進数)

9.2 TCP-IP コネクション数の制限と解決策

本機は最大 8 コネクション（8 ポート）まで同時に接続することができます。ただし、同時に使用することができるコネクション数が限られているため、9 台以上のパソコンから制御を行う場合には、本機とのコネクションができないことがあります。

8 コネクションより多くのパソコンからコマンド制御を行う場合は、ユーザ側ソフトで、TCP-IP のコネクションと TCP-IP のクローズを通信コマンド送受信ごとに行うことで、本機側でポートの占有と解放が行われ常時ポートを占有されなくなり、論理的に 8 ポート以上の接続を行うことが可能となります。

[表 9.2] 接続数を増やす手法

ユーザ側パソコンソフト		本機
TCP-IP コネクション	→	(1 ポート占有)
コマンド送信 (@xxx)	→	
	←	コマンド返信 (@xxx)
TCP-IP クローズ	→	(1 ポート開放)

注意！

パソコン側から本機へ 30 秒間コマンドの送信が行われなかった場合、本機は、コネクション数制限の問題を回避するため、コネクションの切断処理をします。そのためパソコン側からは再度コネクションを確立しないと通信ができなくなります。再度コネクションを確立するためには、今まで繋いでいたパソコン側のコネクションの切断処理をした後に再度コネクションの確立処理をしてください。

※本機のポート数は 8 ポートのため、パソコン側の電源が OFF にされた場合、コネクションが繋がったまま、永久にポートが占有されます。そのため、パソコン側から通信コマンドが来ない場合、コネクションの切断処理をしています。

9.3 WEB ブラウザでの制御

LAN 接続されている本機を、WEB ブラウザ（Microsoft Internet Explorer）から制御することができます。

9.3.1 WEB ブラウザの起動方法

パソコンで WEB ブラウザを開き、アドレスバーに本機の IP アドレスを入力してください。

- ・ WEB ブラウザ制御ポートのポート番号設定が 80 番の場合（通常）
http://192.168.1.199
- ・ WEB ブラウザ制御ポートのポート番号設定が 80 番以外の場合の入力方法（5000 番 ~ 5999 番）
（例）5000 番の場合
http://192.168.1.199:5000

■WEB ブラウザパスワード認証画面

パスワードロック機能が ON に設定されている場合は、WEB ブラウザパスワード認証画面が表示されます。（※初期値：パスワード OFF）



[図 9.3.1] WEB ブラウザパスワード認証画面

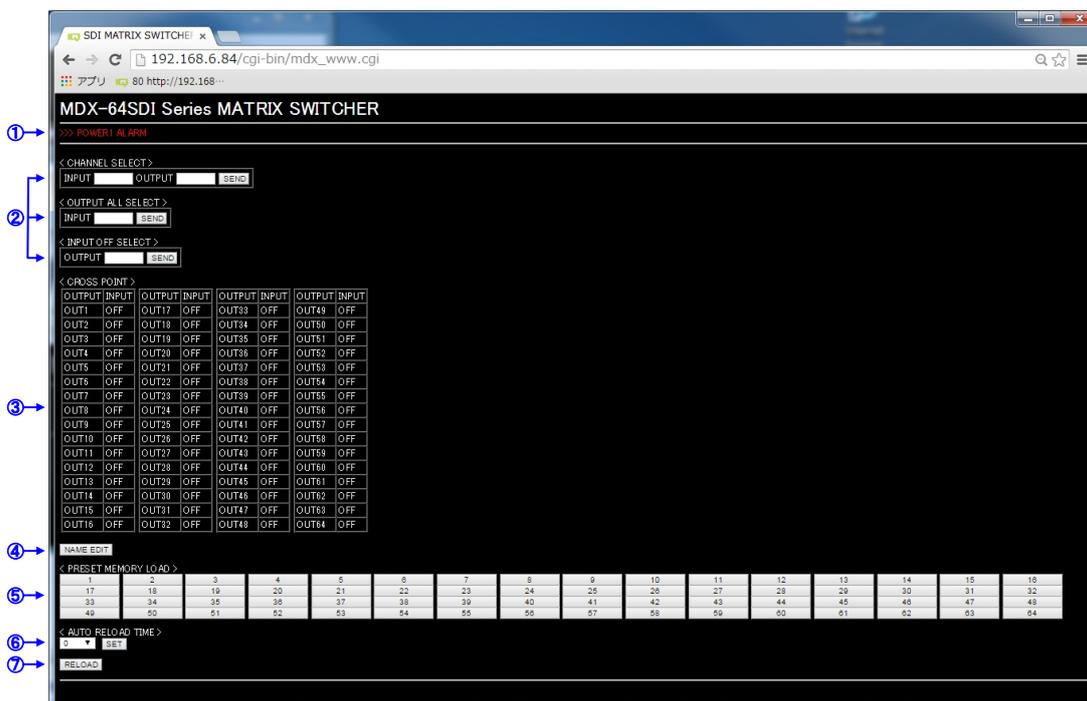
① パスワード

パスワードを入力し、OK ボタンで決定します。（※初期値パスワード：IDK）

② エラーメッセージ

パスワードの認証に失敗した場合、エラーメッセージが表示されます。

■WEB ブラウザ入出力設定画面



[図 9.3.2] WEB ブラウザ入出力設定画面

① アラーム機能のステータス表示

アラームを検出した場合は、赤文字で表示されます。

メッセージ	内容
POWER1 ALARM	電源 1 が異常のためアラームが出力されました。
POWER2 ALARM	電源 2 が異常のためアラームが出力されました。
SDI IN ALARM	SDI 入力信号のキャリア検出異常のためアラームが出力されました。
SDI OUT ALARM	SDI 出力信号のキャリア検出異常のためアラームが出力されました。
REF ALARM	基準同期信号の入力検出異常のためアラームが出力されました。
FAN ALARM	ファンが異常のためアラームが出力されました。

② 入出力チャンネル選択 (CHANNEL SELECT, OUTPUT ALL SELECT, INPUT OFF SELECT)

出力チャンネルの設定に使用します。

CHANNEL SELECT : 入出力チャンネルを個別に設定。

OUTPUT ALL CHANNEL : 指定された入力チャンネルを ALL (全出力) に設定。

INPUT OFF SELECT : 指定された出力チャンネルを OFF (無信号) に設定。

テキストボックスの中に入出力の値を入力し SEND をクリックします。

The image shows a dark-themed control panel with three elements: a label 'INPUT' followed by a white rectangular input field, a label 'OUTPUT' followed by another white rectangular input field, and a blue button with the text 'SEND' in white. The entire panel is enclosed in a thin white border.

※ INPUT に 0 を入力した場合、OFF (無信号) 設定と認識します。

③ 入出力チャンネル状態表示 (CROSS POINT)

入出力チャンネルの設定状態を表示します。

左側が出力チャンネル、右側が入力チャンネルの表示になります。

④ 入出力チャンネル名編集 (NAME EDIT)

「CROSS POINT」に表示される入出力チャンネルの名前の編集が可能です。

このボタンを押すと、「WEB ブラウザ入出力名編集画面」を表示します。

⑤ プリセットメモリ読み出し (PRESET MEMORY LOAD)

登録されているプリセットメモリを読み出し、入出力チャンネルの状態を設定します。

※各プリセットメモリに@SPM コマンドと@SEM コマンドにより、ASCII コードの 20 ~ 7D の中から半角英数最大 10 文字まで名前をつけることが可能です。

⑥ 自動更新時間設定 (AUTO RELOAD TIME)

WEB ブラウザの自動更新の時間を設定します。(※初期値 0 [sec])

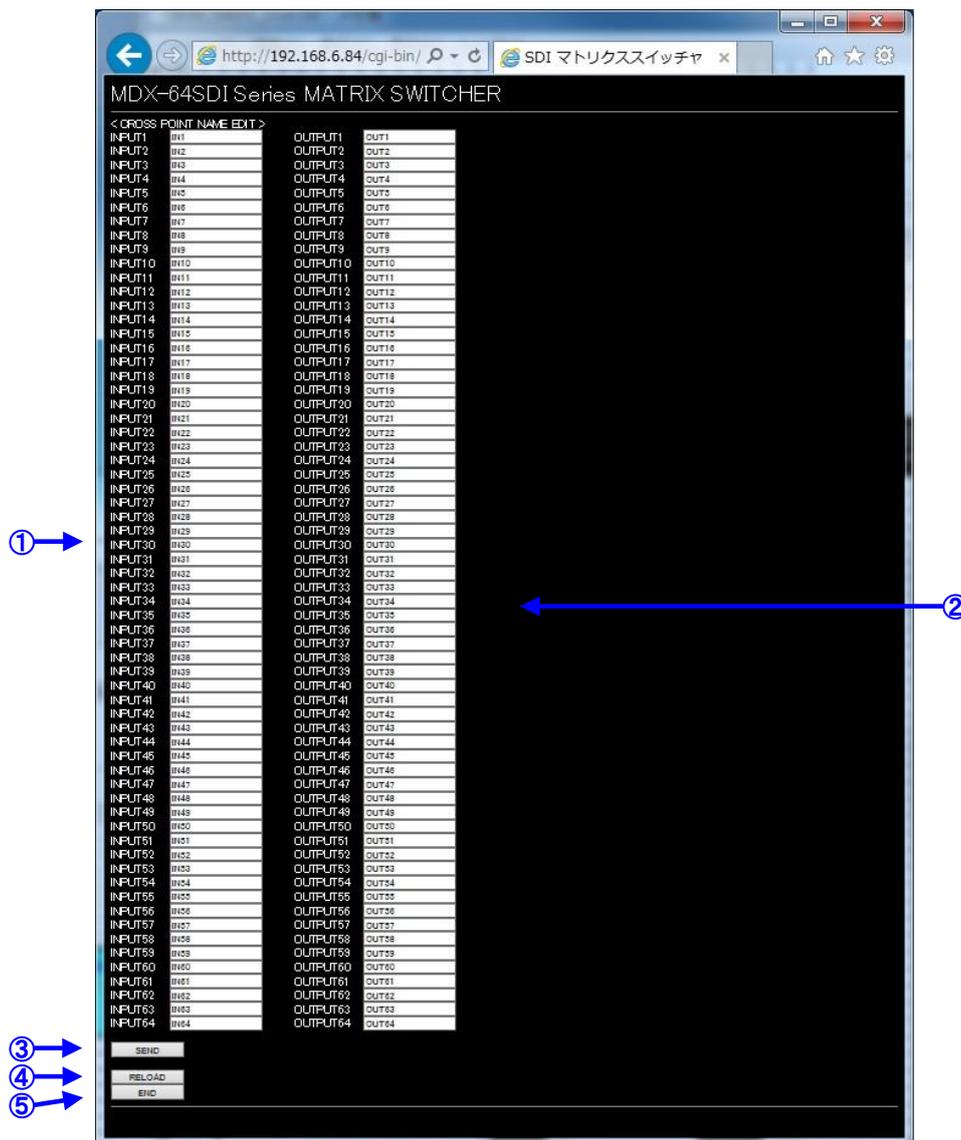
更新時間は (0, 5, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80, 85, 90, 95, 100 [sec]) から選択可能です。

※自動更新を OFF にする場合は 0 [sec] に設定してください。

⑦ ページ更新 (RELOAD)

本機の最新情報を取得する際に使用します。

■WEB ブラウザ入出力名編集画面



[図 9.3.3]WEB ブラウザ入出力名編集画面

- ① 入力チャンネル名 (INPUT1 ~ INPUT64)
” WEB ブラウザ入出力設定画面” の「CROSS POINT」に表示される入力チャンネルの名前を入力します。ASCII コードの 20 ~ 7D の中から半角英数最大で 10 文字まで入力することができます。
- ② 出力チャンネル名 (OUTPUT1 ~ OUTPUT64)
” WEB ブラウザ入出力設定画面” の「CROSS POINT」に表示される出力チャンネルの名前を入力します。ASCII コードの 20 ~ 7D の中から半角英数最大で 10 文字まで入力することができます。
- ③ 入出力チャンネル名決定 (SEND)
①および②で入力した入出力チャンネル名を決定し、本機に保存します。
- ④ ページ更新 (RELOAD)
最初から入力し直す場合に使用します。
このボタンを押すと、画面の表示がすべて現在の設定に更新されます。

⑤ 操作終了 (END)

入出力チャンネル名の編集を終了します。

このボタンを押すと” WEB ブラウザ入出力設定画面”に戻ります。

※デュアルリンク SDI モードの場合はタイトルの下に” Dual Link Mode”と表示されます。

この場合、入出力チャンネル数は半分になります。

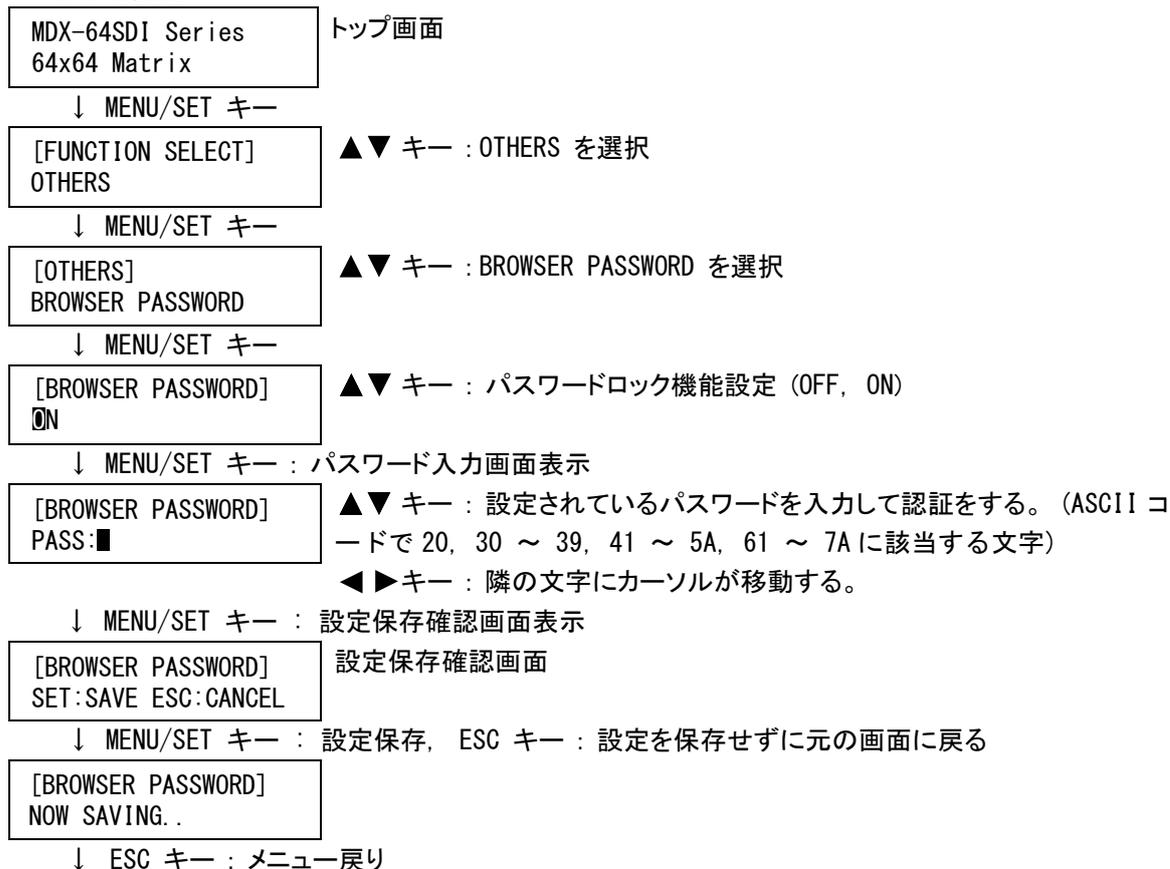
8 系統単位での入出力数をカスタマイズした場合、チャンネル数はカスタマイズした入出力数になります。

9.3.2 WEB ブラウザのパスワード認証画面設定方法

パスワードロック機能が有効に設定されている場合は、WEB ブラウザパスワード認証画面が表示されません。

- ・パスワードロック機能無効 : OFF ※初期値
- ・パスワードロック機能有効 : ON
- ・パスワード初期値 : IDK

■メニューによる設定



※パスワードに誤りがある場合「PASSWORD ERROR」が 1 秒間表示されます。

■コマンド

- @SBP WEB ブラウザパスワードロック機能設定
- @GBP WEB ブラウザパスワードロック機能取得

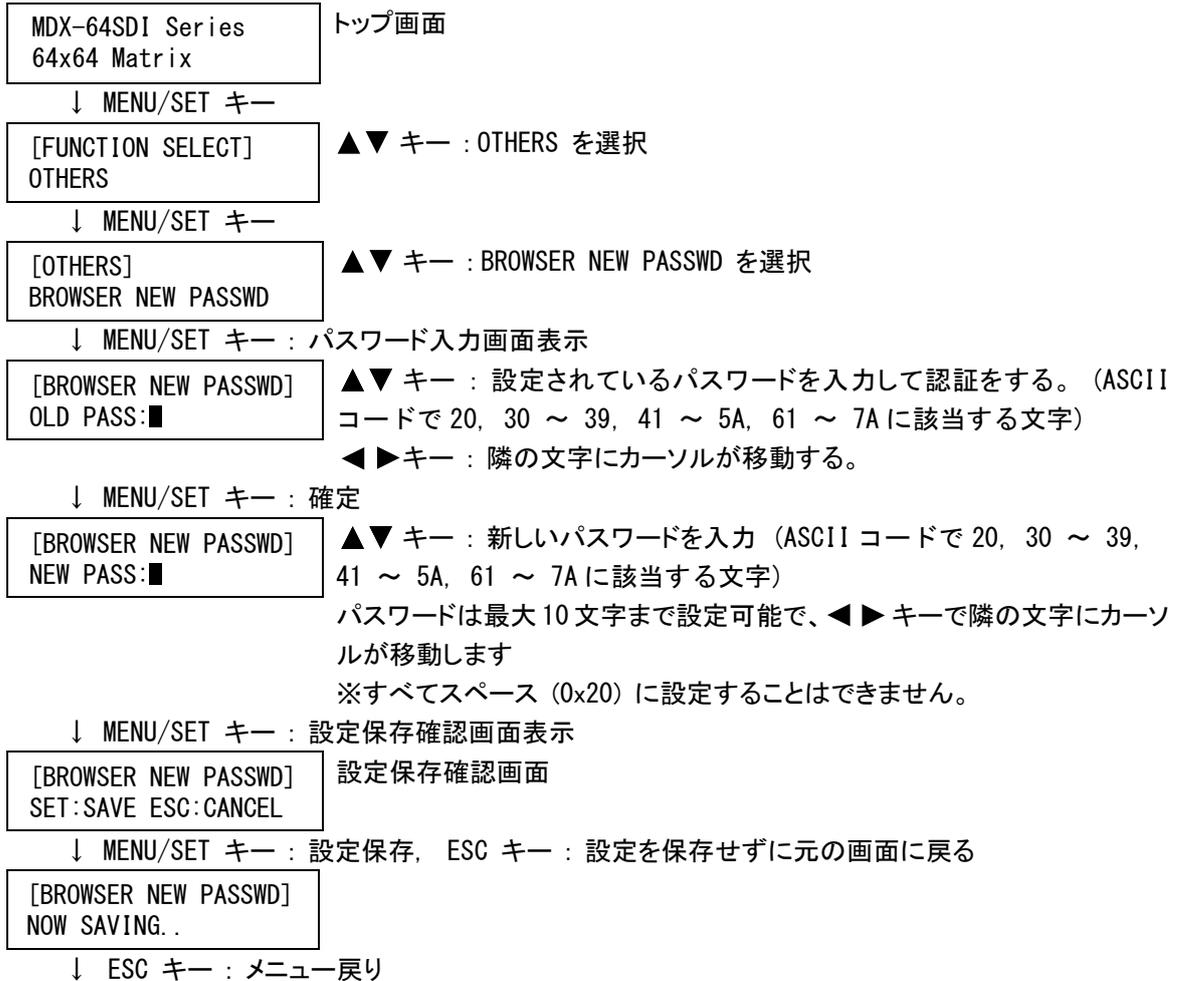
9.3.3 WEB ブラウザ認証用パスワード変更方法

WEB ブラウザ認証用のパスワードの変更ができます。

- ・パスワード初期値 : IDK

※工場出荷時設定にした場合、パスワードも初期化されます。

■メニューによる設定



※パスワードに誤りがある場合「PASSWORD ERROR」が 1 秒間表示されます。

■コマンド

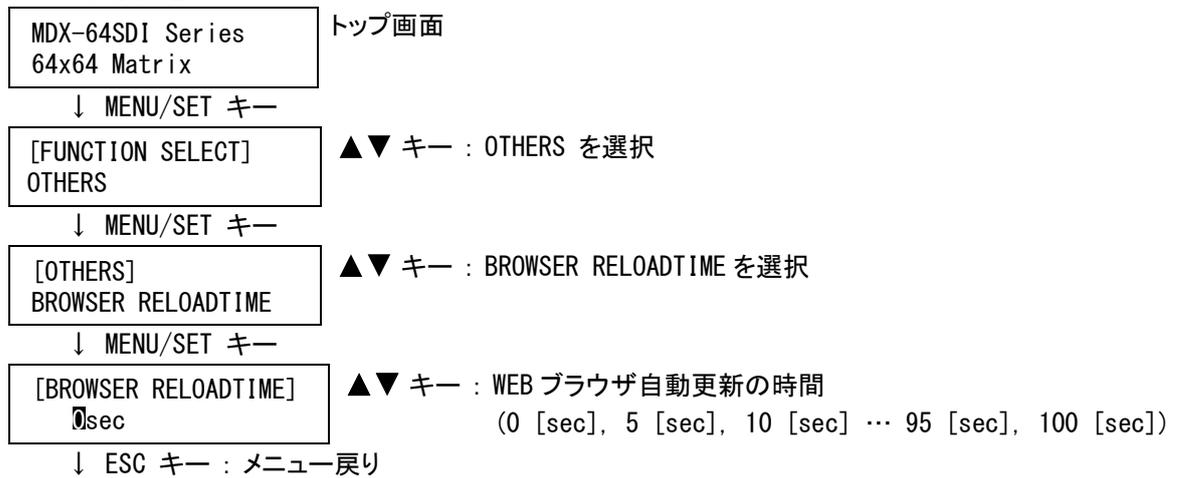
- @SBP WEB ブラウザパスワードロック機能設定
- @GBP WEB ブラウザパスワードロック機能取得

9.3.4 WEB ブラウザの自動更新の時間設定

WEB ブラウザの自動更新の時間を本機からも設定可能です。

- ・WEB ブラウザ自動更新の時間 : 0 [sec], 5 [sec], 10 [sec] ... 95 [sec], 100 [sec]
 ※初期値 0[sec]

■メニューによる設定



※自動更新を OFF にする場合は 0 に設定してください。

※設定を 0 から変更した場合は、一度 WEB ブラウザを更新してください。

■コマンド

- @SBR WEB ブラウザ自動更新時間設定
- @GBR WEB ブラウザ自動更新時間取得

10 アラーム出力

本機は以下の監視をします。

- ・電源 1 電圧
- ・電源 2 電圧
- ・SDI 入力キャリア検出
- ・SDI 出力キャリア検出
- ・基準同期信号検出
- ・ファン回転数

アラーム監視項目に異常が発生した場合、アラーム出力および SNMP トラップ送信をします。フロントのアラーム LED により、異常の内容を確認することが可能です。

[表 10.1] アラーム監視項目一覧

アラーム監視項目	監視状態	内容
電源 1 アラーム	常時監視	電源 1 電圧が異常のときアラームが出力されます。電源電圧 5.0 V に対し、4.5 V ~ 5.5 V なら正常です。
電源 2 アラーム	常時監視	電源 2 電圧が異常のときアラームが出力されます。電源電圧 5.0 V に対し、4.5 V ~ 5.5 V なら正常です。
SDI 入力キャリア検出アラーム	SDI 入力キャリア検出の設定をしたチャンネルを監視 (※初期値：監視なし)	SDI 入力キャリアが検出できない場合、アラームが出力されます。
SDI 出力キャリア検出アラーム	SDI 出力キャリア検出の設定をしたチャンネルを監視 (※初期値：監視なし)	SDI 出力キャリアが検出できない場合、アラームが出力されます。
基準同期信号検出アラーム	基準同期信号検出設定を行ったときに監視 (※初期値：監視なし)	基準同期信号が検出できない場合、アラームが出力されます。
ファンアラーム	常時監視	ファン回転数が異常のとき、アラームが出力されます。ファン回転数が 2101 rpm 以上なら正常です。

※SDI 入出力の監視機能は信号のキャリアで判定を行っています。SDI 信号のフォーマットやパケット内のエラーは監視していません。

[表 10.2] アラーム出力

アラーム監視項目	アラーム表示 LED (フロントパネル)	異常発生時出力
電源 1 アラーム	POWER1 ALARM	<ul style="list-style-type: none"> ・アラーム LED の点滅 ・アラーム出力 (アラームコネクタより) ・SNMP トラップ送信
電源 2 アラーム	POWER2 ALARM	
SDI 入力キャリア検出アラーム	SDI IN ALARM	
SDI 出力キャリア検出アラーム	SDI OUT ALARM	
基準同期信号検出アラーム	REF ALARM	
ファンアラーム	FAN ALARM	

■アラーム使用方法手順

手順 1 : アラームが必要な項目の検出設定をします。(常時監視は電源 1 アラーム、電源 2 アラームおよびファンアラームになります。)

SDI 入力キャリアの監視 : SDI 入力キャリア検出設定をします。

SDI 出力キャリアの監視 : SDI 出力キャリア検出設定をします。

基準同期信号の監視 : 基準同期信号検出設定をします。

手順 2 : SNMP トラップ送信を行う場合は、SNMP トラップ送信のための設定をしてください。

■コマンド

@GAI アラーム情報取得

10.1 電源 1 アラーム

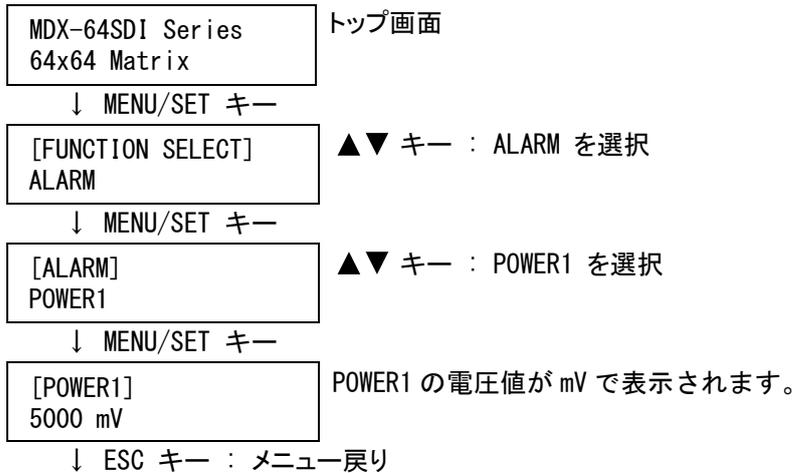
電源 1 電圧が異常の場合アラームが出力されます。

電源 1 電圧は 5.0 V が基準になります。(※電源電圧値は mV 単位になります。)

■電源 1 電圧値 (POWER1 ALARM)

電源電圧	LED 表示	アラーム出力
4.5 V ~ 5.5 V	消灯	なし
4.5 V 未満、5.5 V より大きい	点滅	あり

■メニューによる電源 1 電圧値の表示



■コマンド

@GPV 電源電圧値の取得

10.2 電源 2 アラーム

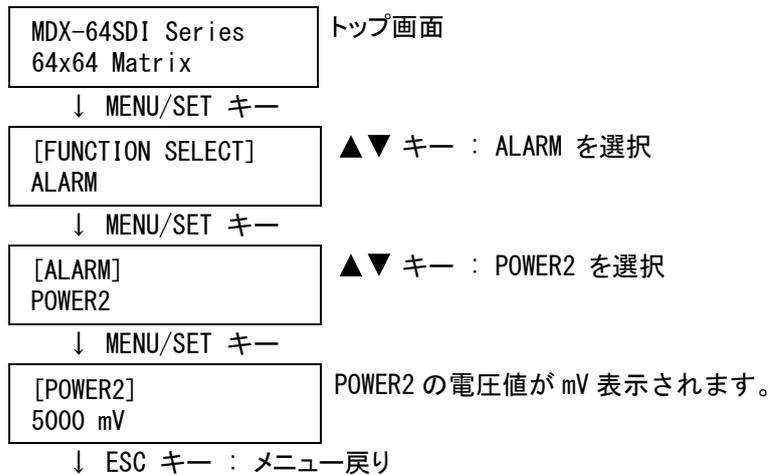
電源 2 電圧が異常の場合アラームが出力されます。

電源 2 電圧は 5.0 V が基準になります。(※電源電圧値は mV 単位になります。)

■電源 2 電圧値 (POWER2 ALARM)

電源電圧	LED 表示	アラーム出力
4.5 V ~ 5.5 V	消灯	なし
4.5 V 未満、5.5 V より大きい	点滅	あり

■メニューによる電源 2 電圧値の表示



■コマンド

@GPV 電源電圧値の取得

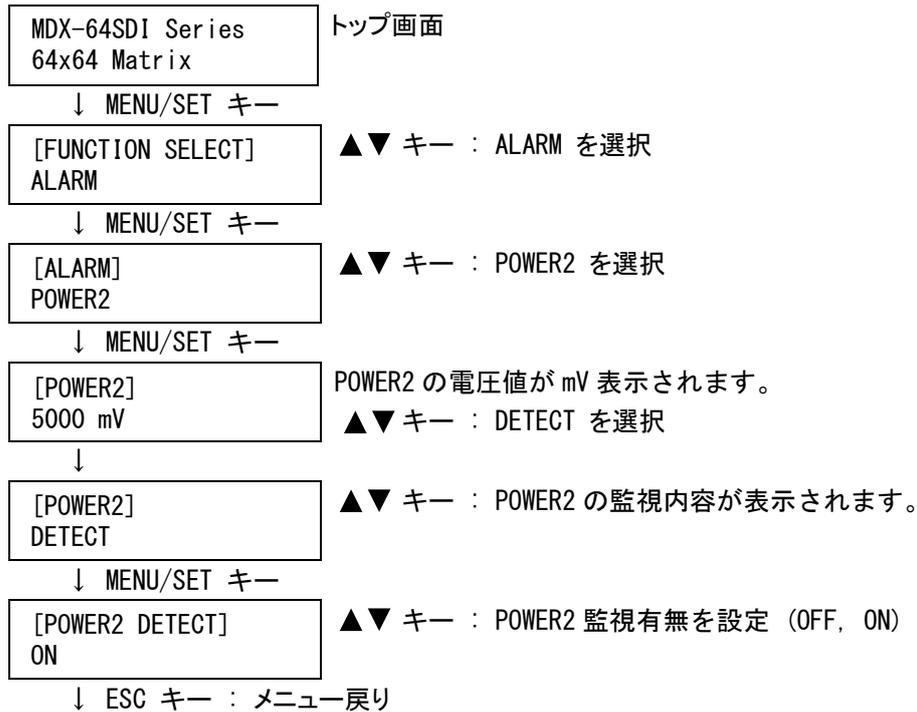
10.2.1 電源 2 監視の有効/無効

電源 2 (POWER2) 監視の有効/無効の設定をします。

電源 2 (POWER2) 監視を無効にした場合、電源 2 に関するアラーム出力はしません。

- ・ 電源 2 監視無効 : OFF
- ・ 電源 2 監視有効 : ON ※初期値

■メニューによる設定



■コマンド

なし

10.3 SDI 入力キャリア検出アラーム

SDI 入力キャリアが検出できない場合、SDI 入力キャリア検出アラームが出力されます。

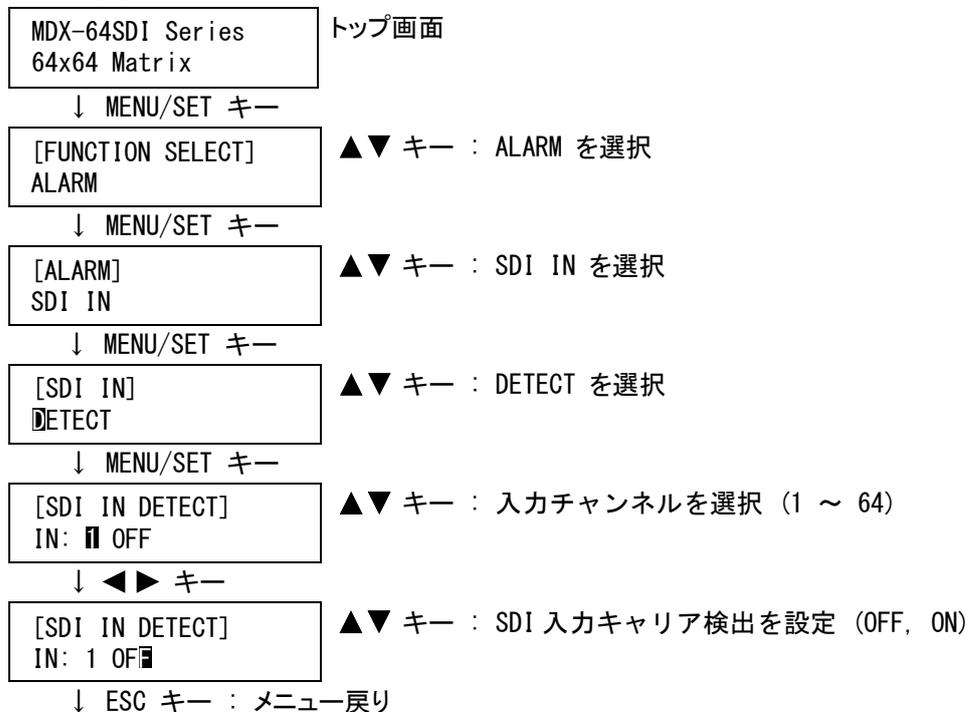
10.3.1 検出設定

SDI 入力キャリアの検出を行う場合、SDI 入力キャリア検出設定を“あり”に設定します。

■入力キャリア検出設定

アラーム監視	SDI 入力キャリア検出設定
無効 (OFF)	キャリア検出なし ※初期値
有効 (ON)	キャリア検出あり

■メニュー項目



■コマンド

@SID SDI 入力キャリア検出設定

@GID SDI 入力キャリア検出設定取得

10.3.2 検出値の取得

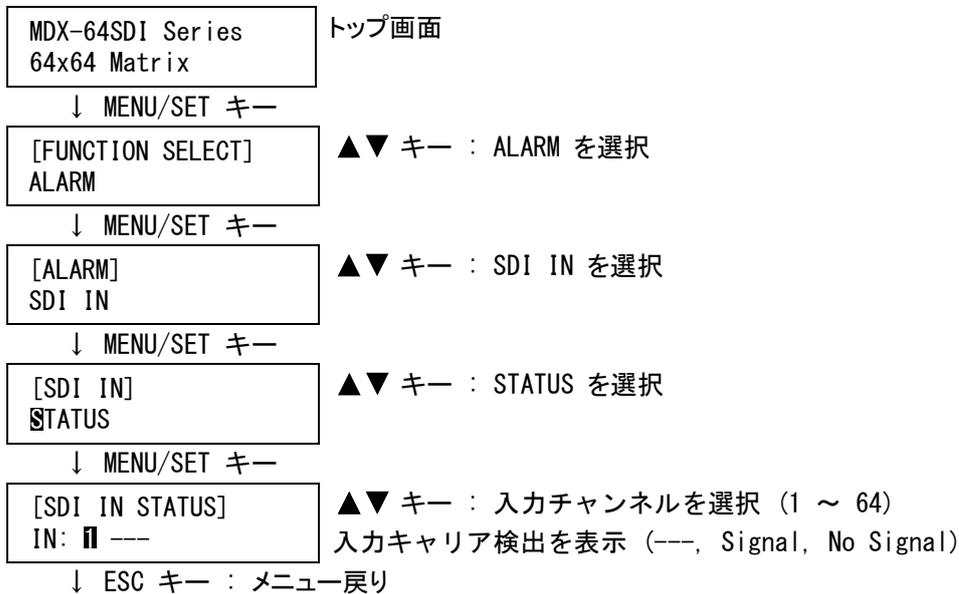
SDI 入力キャリア検出値の確認ができます。

■入力キャリア検出アラーム (SDI IN ALARM)

アラーム監視	入力キャリア	LED 表示	アラーム出力
無効	—	消灯	なし
有効	検出	消灯	なし
	非検出	点滅	あり

■メニューによる SDI 入力キャリアの検出値の表示

- ・SDI 入力キャリア検出設定なし : --- ※初期値
- ・SDI 入力キャリア検出 : Signal
- ・SDI 入力キャリア非検出 : No Signal



■コマンド

@GIC SDI 入力キャリア検出値取得

10.4 SDI 出力キャリア検出アラーム

SDI 出力キャリアが検出できない場合、SDI 出力キャリア検出アラームが出力されます。

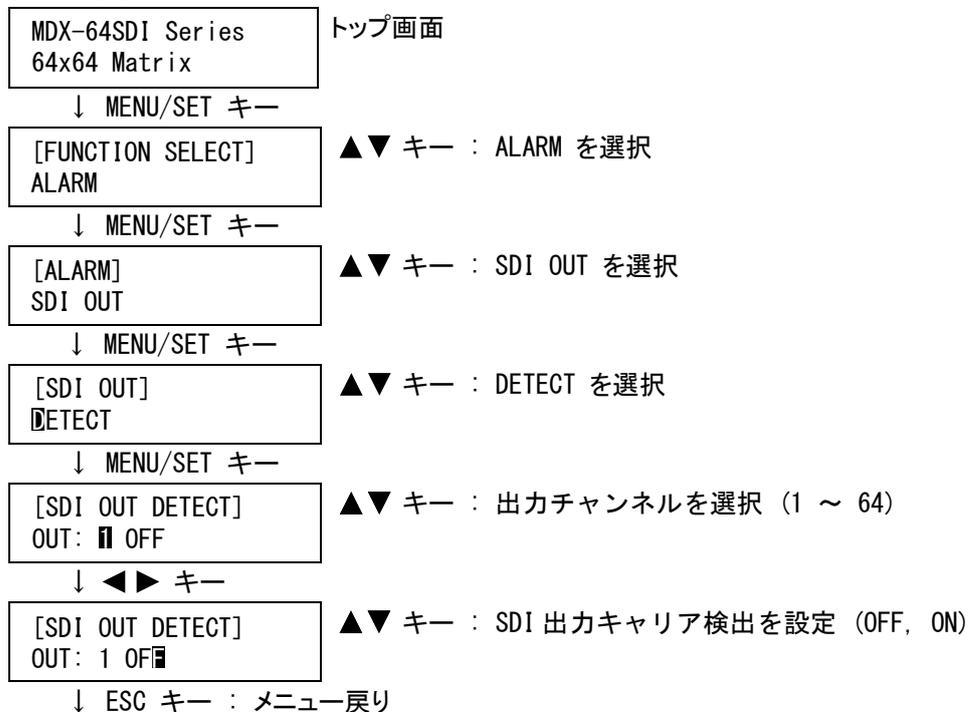
10.4.1 検出設定

SDI 出力キャリアの検出を行う場合、SDI 出力キャリア検出設定を“あり”に設定します。

■出力キャリア検出設定

アラーム監視	SDI 出力キャリア検出設定
無効 (OFF)	キャリア検出なし ※初期値
有効 (ON)	キャリア検出あり

■メニュー項目



■コマンド

@SOD SDI 出力キャリア検出設定

@GOD SDI 出力キャリア検出設定取得

10.4.2 検出値の取得

SDI 出力キャリア検出値の確認ができます。

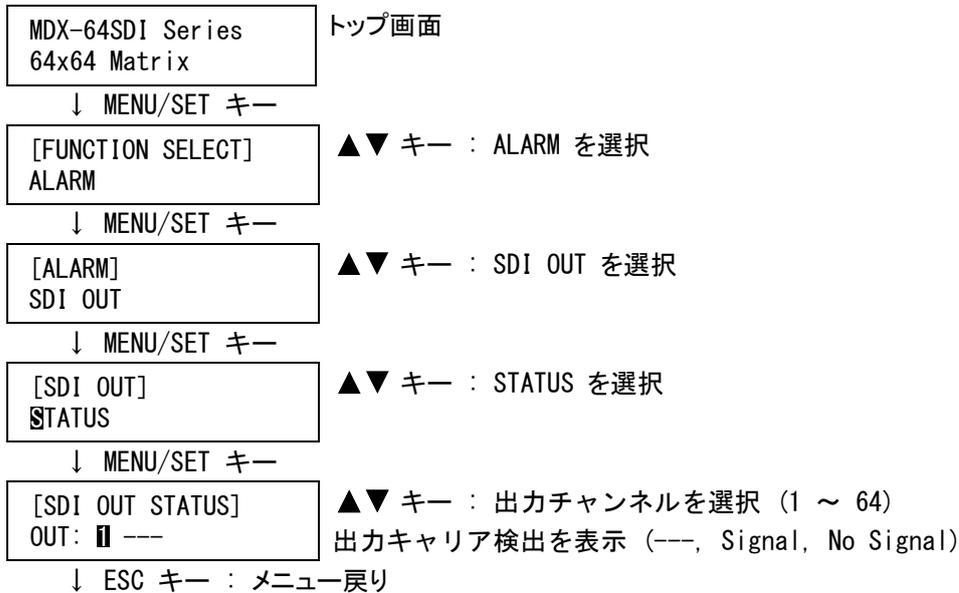
■出力キャリア検出アラーム (SDI OUT ALARM)

アラーム監視	出力キャリア	LED 表示	アラーム出力
無効	—	消灯	なし
有効	検出	消灯	なし
	非検出	点滅	あり

※出力チャンネルに入力 OFF が設定されている場合、“キャリア検出設定なし”を返します。

■メニューによる SDI 出力キャリアの検出値の表示

- ・SDI 出力キャリア検出設定なし : --- ※初期値
- ・SDI 出力キャリア検出 : Signal
- ・SDI 出力キャリア非検出 : No Signal



■コマンド

@GOC SDI 出力キャリア検出値取得

10.5 基準同期信号検出アラーム

基準同期信号が検出できない場合、基準同期信号検出アラームが出力されます。

10.5.1 検出設定

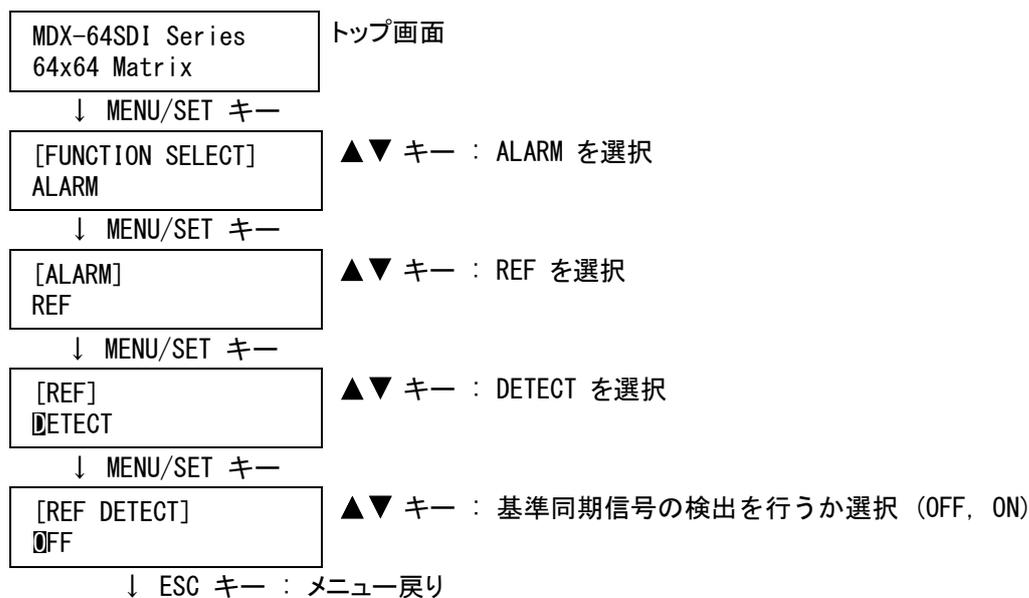
基準同期信号の検出を行う場合、基準同期信号検出設定を“あり”に設定します。

■基準同期信号検出設定

アラーム監視	基準同期信号検出設定
無効 (OFF)	検出なし ※初期値
有効 (ON)	検出あり

■メニュー項目

- ・同期信号検出設定なし : OFF ※初期値
- ・同期信号検出設定あり : ON



■コマンド

- @SRD 基準同期信号検出設定
- @GRD 基準同期信号検出設定取得

10.5.2 検出値の取得

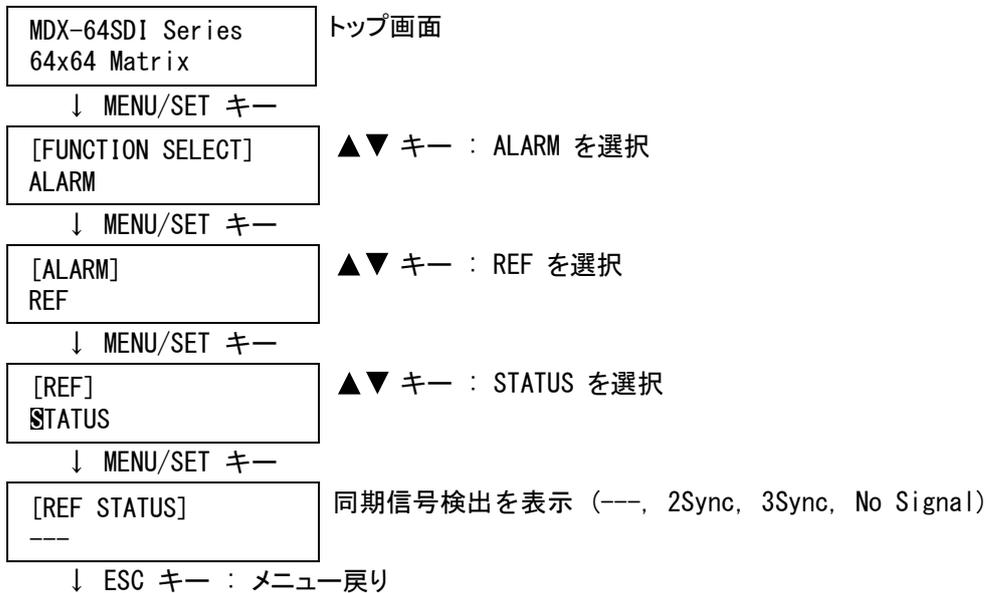
基準同期信号検出値の確認ができます。

■基準同期信号アラーム (REF ALARM)

アラーム監視	基準同期信号検出値	LED 表示	アラーム出力
無効	—	消灯	なし
有効	ブラックバースト (BB) 信号検出	消灯	なし
	3 値同期信号検出	消灯	なし
	非検出	点滅	あり

■メニューによる基準同期信号の検出値の表示

- ・同期信号検出設定なし : --- ※初期値
- ・2 値同期信号検出 : 2Sync
- ・3 値同期信号検出 : 3Sync
- ・同期信号非検出 : No Signal



■コマンド

@GRC 基準同期信号検出値取得

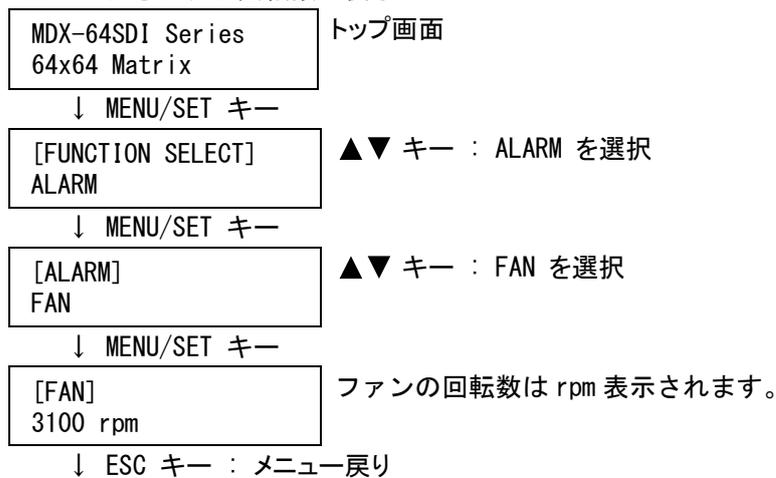
10.6 ファンアラーム

ファンの回転数が 2100 [rpm] 以下になった場合、ファンアラームが出力されます。

■ ファンアラーム (FAN ALARM)

ファン回転数	LED 表示	アラーム出力
2101 [rpm] 以上	消灯	なし
2100 [rpm] 以下	点滅	あり

■ メニューによるファン回転数の表示



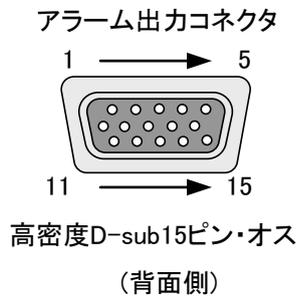
■ コマンド

@GFV ファン回転数取得

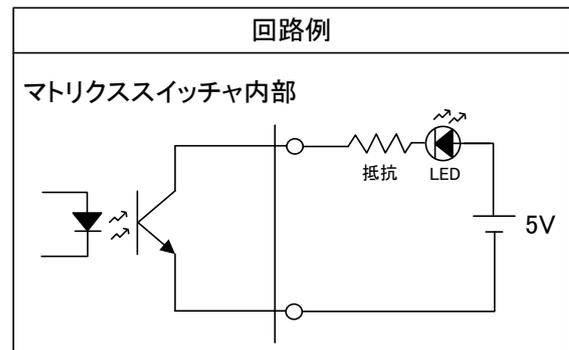
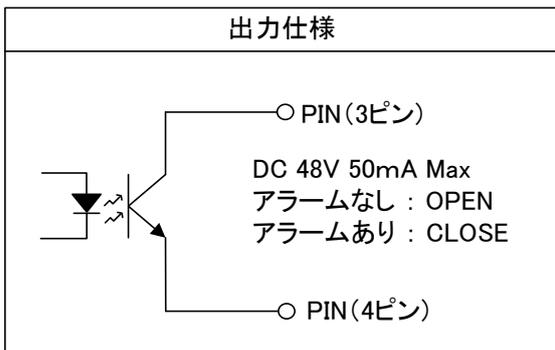
10.7 アラーム出力コネクタ仕様

アラーム監視項目に異常が発生した場合、アラーム出力コネクタの端子からアラーム出力をします。

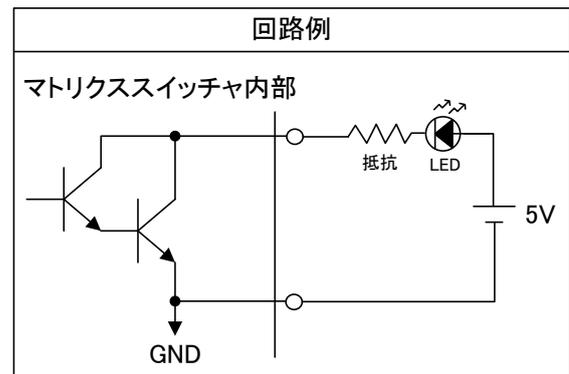
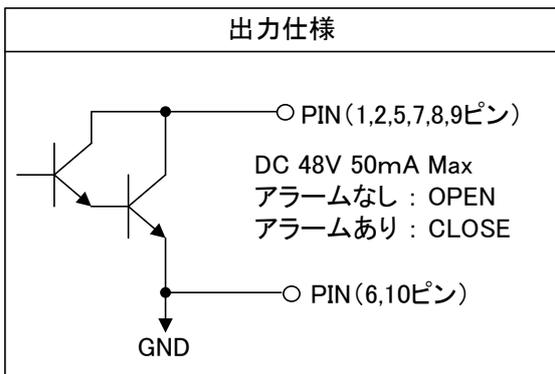
ピン番号	信号名
1	SDI入力キャリア検出アラーム(非絶縁端子)
2	SDI出力キャリア検出アラーム(非絶縁端子)
3	全アラームの結果アラーム(フォトカプラ絶縁端子)
4	3ピン用GND
5	電源1電圧アラーム(非絶縁端子)
6	1,2,5,7,8,9ピン用GND
7	ファン回転数アラーム(非絶縁端子)
8	電源2電圧アラーム(非絶縁端子)
9	基準同期信号検出アラーム(非絶縁端子)
10	1,2,5,7,8,9ピン用GND
11 - 15	N.C. (未使用)



■フォトカプラ絶縁端子の出力仕様と回路例



■非絶縁端子の出力仕様と回路例



[図 10.1] アラーム端子仕様

アラーム端子は、フォトカプラ絶縁端子（3ピン）と非絶縁端子（1, 2, 5, 7, 8, 9ピン）の2種類があります。

アラーム端子の4ピンは、フォトカプラ絶縁端子用の専用GNDになります。非絶縁端子用のGNDは、6ピンと10ピンになります。電源は外部電源のみになります。

1, 2, 5, 7, 8, 9ピンは、各監視項目専用のアラーム出力になります。

3ピンは、全アラームの結果アラームになり、監視項目のどれか1個でも異常が発生した場合にアラーム出力されます。

■アラーム端子の電圧値（4.7 kΩにて外部電源5 Vにプルアップした場合）

アラーム	フォトカプラ絶縁端子	非絶縁端子
アラームあり	約0 V	約0.6 V
アラームなし	外部電源の電圧値	外部電源の電圧値

10.8 SNMP トラップ送信機能

アラームが発生した場合、SNMPトラップ送信先 IP アドレスにトラップ送信します。
 本機は SNMP エージェント、そして送信先 IP アドレスの機器は SNMP マネージャになります。
 アラーム発生からアラームが復旧するまで 60 秒間隔で、SNMP マネージャに対してトラップ送信を続けます。
 アラームが復旧した時には、復旧アラームをトラップ送信します。

[表 10.8.1] SNMP 通信仕様

Private Enterprise Number (PEN)	40592
バージョン	Ver. 2
ポート番号	SNMP ポート: 161 固定 SNMP トラップのポート: 動的に割り当てられます。 ※SNMP トラップのマネージャ側ポートは 162 固定
SNMP 有効/無効	無効 (初期値)
SNMP コミュニティ名	public (初期値)
SNMP トラップ送信有効/無効	無効 (初期値)
SNMP トラップ送信コミュニティ名	public (初期値)
SNMP トラップ送信先数	最大 2 個

※SNMP、SNMP トラップとも初期値は無効ですので、設定を有効にすることにより使用可能になります。

[表 10.8.2] トラップ送信項目と条件

SNMP トラップ送信項目	SNMP トラップ送信条件
電源起動時 (標準トラップ)	電源起動時に送信します。
電源 1 アラーム	電源 1 異常時に送信します。 アラームが復旧するまで、60 秒間隔で送信します。
電源 1 アラーム復旧	電源 1 正常復帰時に送信します。
電源 2 アラーム	電源 2 異常時に送信します。 アラームが復旧するまで、60 秒間隔で送信します。
電源 2 アラーム復旧	電源 2 正常復帰時に送信します。
SDI 入力キャリア検出アラーム	SDI 入力キャリア検出異常時に送信します。 アラームが復旧するまで、60 秒間隔で送信します。
SDI 入力キャリア検出アラーム復旧	SDI 入力キャリア検出正常復帰時に送信します。
SDI 出力キャリア検出アラーム	SDI 出力キャリア検出異常時に送信します。 アラームが復旧するまで、60 秒間隔で送信します。
SDI 出力キャリア検出アラーム復旧	SDI 出力キャリア検出正常復帰時に送信します。
基準同期信号検出アラーム	基準同期信号検出異常時に送信します。 アラームが復旧するまで、60 秒間隔で送信します。
基準同期信号検出アラーム復旧	基準同期信号検出正常復帰時に送信します。
ファンアラーム	ファン異常時に送信します。 アラームが復旧するまで、60 秒間隔で送信します。
ファンアラーム復旧	ファン正常復帰時に送信します。

■SNMP トラップ送信の使用方法手順

手順 1：アラーム検出の設定をします。初期値は、電源 1 アラーム、電源 2 アラームおよびファンアラームのみ検出します。

必要に応じて、以下の設定をします。

- ・ SDI 入力キャリア検出アラーム
- ・ SDI 出力キャリア検出アラーム
- ・ 基準同期信号検出アラーム

手順 2：SNMP の設定をします。

- (1) 必要に応じて SNMP のコミュニティ名を設定してください。
- (2) SNMP 送信有効/無効の設定を有効にします。

手順 3：SNMP トラップ送信の設定をします。

- (1) 必要に応じて SNMP トラップ送信のコミュニティ名を設定してください。
- (2) SNMP トラップ送信先 IP アドレスを設定します。
- (3) SNMP トラップ送信有効/無効の設定を有効にします。

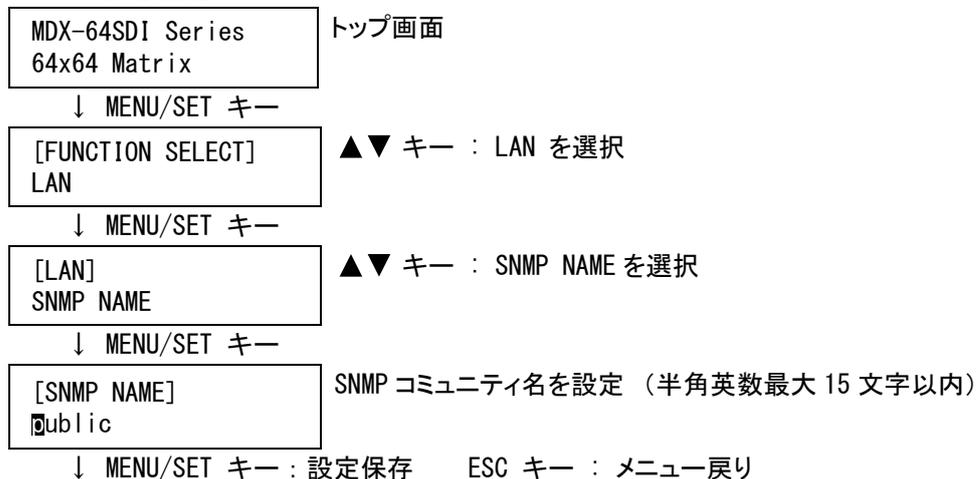
10.8.1 コミュニティ名の設定

SNMP のコミュニティ名を設定します。（※初期値 public）

SNMP コミュニティ名は半角英数最大 15 文字以内とします。

※注意：SNMP コミュニティ名と SNMP トラップコミュニティ名は別々に設定が可能です。

■メニューによる設定



注意：MENU/SET キーを押さないと SNMP コミュニティ名は変更されません。

■コマンド

- @SNN SNMP コミュニティ名の設定
- @GNN SNMP コミュニティ名の取得

10.8.2 SNMP の有効/無効の設定

SNMP 制御全体の使用の有無を設定します。

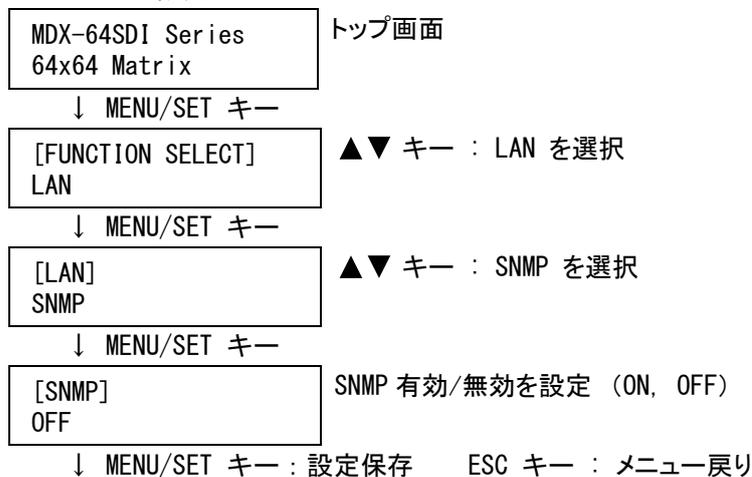
SNMP を使用する場合は SNMP を有効に設定します。

SNMP を有効にすると SNMP の OID にアクセスすることが可能になり、SNMP で監視項目の情報を取得することができます。

- ・ SNMP 無効 : OFF ※初期値
- ・ SNMP 有効 : ON

※注意 : SNMP トラップ送信を使用する場合は、SNMP と SNMP トラップ送信の両方を有効にする必要があります。

■メニューによる設定



注意 : SET キーを押さないと SNMP 有効/無効は変更されません。

■コマンド

- @SNM SNMP 有効/無効の設定
- @GNM SNMP 有効/無効の取得

■SNMP 監視項目のオブジェクト名と OID

監視項目	SNMP オブジェクト名	OID
電源 1 電圧	i3P1Power	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.1.0
電源 2 電圧	i3P2Power	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.2.0
SDI 入力キャリア検出	i3InputSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.3.0
SDI 出力キャリア検出	i3OutputSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.4.0
基準同期信号検出	i3RefSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.5.0
ファン回転数	i3FanSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.6.0

■電源 1 電圧 の SNMP メッセージフォーマット

SNMP で電源 1 電圧のメッセージ値を取得する場合は、下記 OID にアクセスし取得します。

SNMP トラップ送信では、電源 1 電圧アラーム/電源 1 電圧アラーム復旧のメッセージ値になります。

電源 1 電圧	SNMP オブジェクト名	OID	返答される メッセージの型
	i3P1Power	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.1.0	INTEGER
返答されるメッセージ の書式 (variable-bindings)	電源 1 電圧値 (mV 単位)		
パラメータ	0 ~ xxxx		

■電源 2 電圧 の SNMP メッセージフォーマット

SNMP で電源 2 電圧のメッセージ値を取得する場合は、下記 OID にアクセスし取得します。

SNMP トラップ送信では、電源 2 電圧アラーム/電源 2 電圧アラーム復旧のメッセージ値になります。

電源 2 電圧	SNMP オブジェクト名	OID	返答される メッセージの型
	i3P2Power	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.2.0	INTEGER
返答されるメッセージ の書式 (variable-bindings)	電源 2 電圧値 (mV 単位)		
パラメータ	0 ~ xxxx		

■SDI 入力キャリア検出の SNMP メッセージフォーマット

SNMP で SDI 入力キャリア検出のメッセージ値を取得する場合は、下記 OID にアクセスし取得します。

SNMP トラップ送信では、SDI 入力キャリア検出アラーム/SDI 入力キャリア検出アラーム復旧のメッセージ値になります。

SDI 入力キャリア検出	SNMP オブジェクト名	OID	返答される メッセージの型
	i3InputSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.3.0	OCTET STRING
返答される メッセージの書式 (variable-bindings)	SDI 入力キャリア検出値 <i>ch_1, ch_2, . . . , ch_63, ch_64</i>		
パラメータ	<i>ch_1-64</i> : 入力チャンネルごとの検出値 0 = キャリア検出設定なし, 1 = キャリア検出, 2 = キャリア非検出		

※デュアルリンク SDI モードの場合、チャンネル数は半分になります。

※8 系統単位での入出力数をカスタマイズした場合のチャンネル数は、カスタマイズした入出力数になります。

■SDI 出力キャリア検出の SNMP メッセージフォーマット

SNMP で SDI 出力キャリア検出のメッセージ値を取得する場合は、下記 OID にアクセスし取得します。
SNMP トラップ送信では、SDI 出力キャリア検出アラーム/SDI 出力キャリア検出アラーム復旧のメッセージ値になります。

SDI 出力キャリア検出	SNMP オブジェクト名	OID	返答される メッセージの型
	i3OutputSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.4.0	OCTET STRING
返答される メッセージの書式 (variable-bindings)	SDI 出力キャリア検出値 <i>ch_1, ch_2, . . . , ch_63, ch_64</i>		
パラメータ	<i>ch_1-64</i> : 出力チャンネルごとの検出値 0 = キャリア検出設定なし, 1 = キャリア検出, 2 = キャリア非検出		

※デュアルリンク SDI モードの場合、チャンネル数は半分になります。

※8 系統単位での入出力数をカスタマイズした場合のチャンネル数は、カスタマイズした入出力数になります。

■基準同期信号検出の SNMP メッセージフォーマット

SNMP で基準同期信号検出のメッセージ値を取得する場合は、下記 OID にアクセスし取得します。
SNMP トラップ送信では、基準同期信号検出アラーム/基準同期信号検出アラーム復旧のメッセージ値になります。

基準同期信号検出	SNMP オブジェクト名	OID	返答される メッセージの型
	i3RefSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.5.0	INTEGER
返答される メッセージの書式 (variable-bindings)	基準同期信号検出値 <i>ref</i>		
パラメータ	<i>ref</i> : 基準同期信号検出値 0 = 検出設定なし 1 = 基準同期信号検出 (ブラックバースト (BB) 信号検出) 2 = 基準同期信号検出 (3 値同期信号検出) 3 = 基準同期信号非検出		

■ファン回転数の SNMP メッセージフォーマット

SNMP で FAN 回転数のメッセージ値を取得する場合は、下記 OID にアクセスし取得します。
SNMP トラップ送信では、ファン回転数アラーム/ファン回転数アラーム復旧のメッセージ値になります。

ファン回転数	SNMP オブジェクト名	OID	返答される メッセージの型
	i3FanSdi	1.3.6.1.4.1.40592.3.1.6.0	INTEGER
返答される メッセージの書式 (variable-bindings)	ファン回転数 (rpm 単位) <i>fan</i>		
パラメータ	0 ~ xxxx		

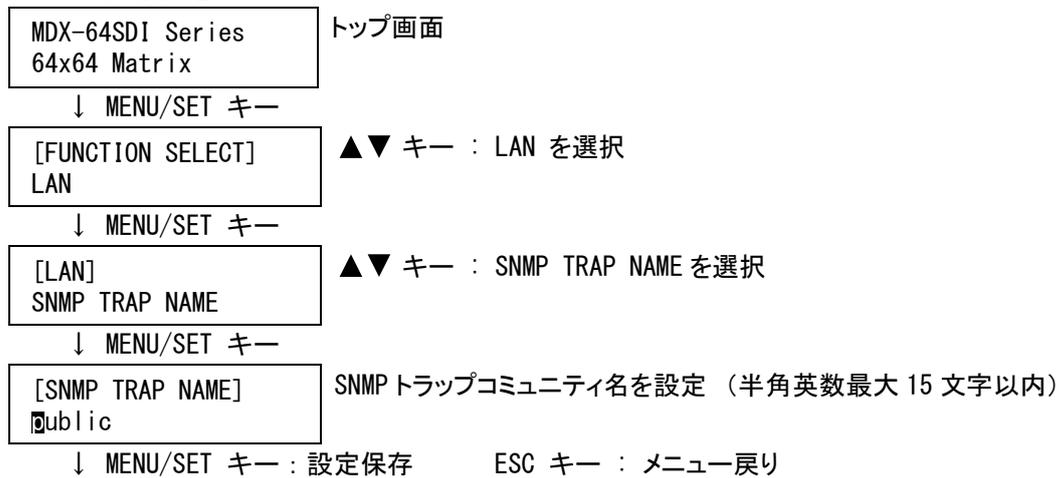
10.8.3 トラップ送信のコミュニティ名の設定

SNMP トラップ送信のコミュニティ名を設定します。(※初期値 public)

SNMP トラップコミュニティ名は半角英数最大 15 文字以内とします。

※注意：SNMP トラップコミュニティ名と SNMP コミュニティ名は別々に設定が可能です。

■メニューによる設定



注意：MENU/SET キーを押さないと SNMP トラップコミュニティ名は変更されません。

■コマンド

@STN SNMP トラップ送信 コミュニティ名の設定

@GTN SNMP トラップ送信 コミュニティ名の取得

10.8.4 トラップ送信先 IP アドレスの設定

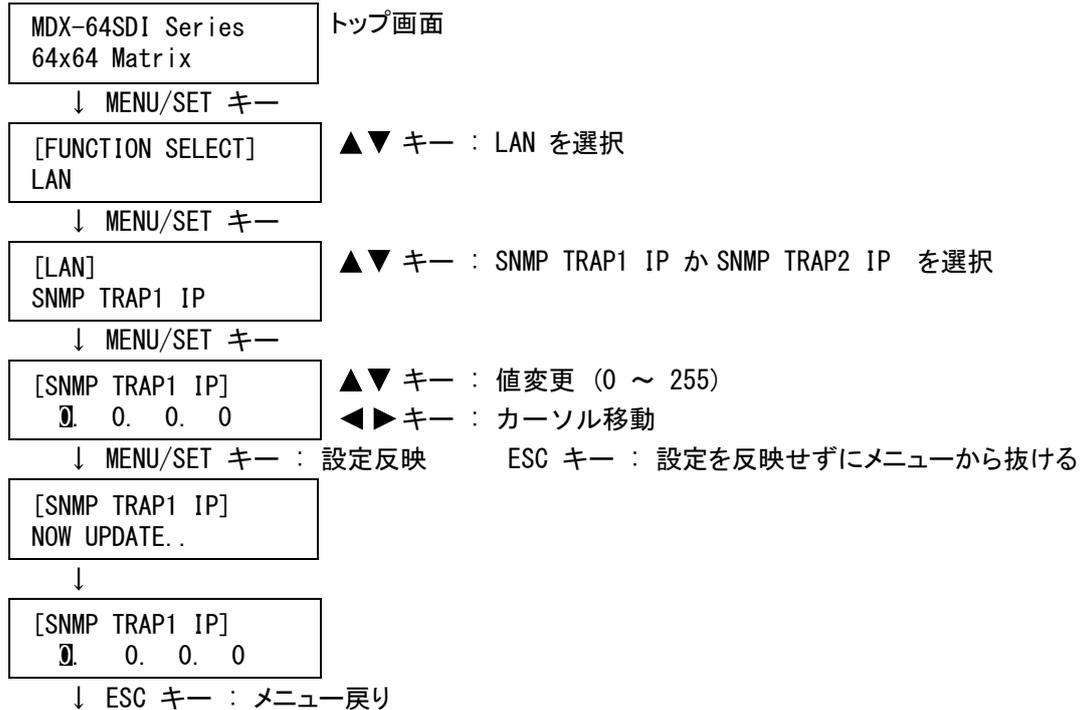
SNMP トラップ送信を行う場合、SNMP トラップ送信先の IP アドレスを設定します。

(※初期値 0.0.0.0)

トラップ送信先は最大 2 箇所設定が可能です。

※注意：SNMP トラップ送信先 IP アドレスが 0.0.0.0 の場合は、トラップ送信は行いません。

■メニューによる設定



注意：MENU/SET キーを押さないと SNMP TRAP 送信先 IP アドレスは変更されません。

■コマンド

@STA SNMP トラップ送信先 IP アドレス設定

@GTA SNMP トラップ送信先 IP アドレス取得

10.8.5 SNMP トラップ送信の有効 / 無効の設定

SNMP トラップ送信をする場合、SNMP トラップ送信有効/無効を有効にします。

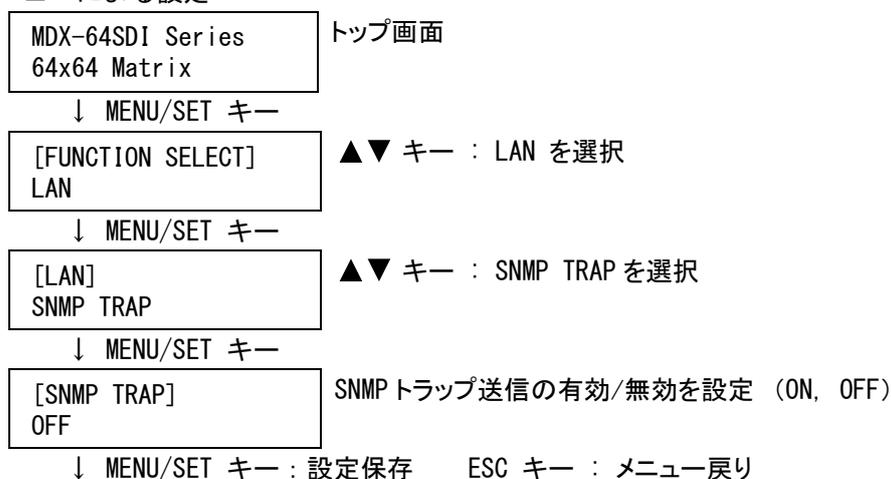
SNMP トラップ送信を有効にすると、各アラームが発生した場合、本機（SNMP エージェント）から SNMP マネージャに対してトラップ送信が行われます。

SNMP 標準トラップは、電源起動時にトラップ送信する coldStart のみ対応しています。

- ・ SNMP トラップ送信無効 : OFF ※初期値
- ・ SNMP トラップ送信有効 : ON

※注意 : SNMP トラップ送信を使用する場合は、SNMP と SNMP トラップ両方を有効にする必要があります。

■メニューによる設定



注意 : MENU/SET キーを押さないと SNMP トラップ送信の有効/無効は変更されません。

■コマンド

- @SNT SNMP トラップ送信 有効/無効の設定
- @GNT SNMP トラップ送信 有効/無効の取得

■SNMP トラップ送信のオブジェクト名と OID

トラップ送信項目	オブジェクト名	トラップタイプ	OID
電源起動時	coldStart	標準	1.3.6.1.6.3.1.1.5.1
電源 1 アラーム	i3P1PowerAlarmStart	拡張	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.10
電源 1 アラーム復旧	i3P1PowerAlarmEnd		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.20
電源 2 アラーム	i3P2PowerAlarmStart		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.11
電源 2 アラーム復旧	i3P2PowerAlarmEnd		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.21
SDI 入力キャリア検出アラーム	i3InputSdiAlarmStart		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.12
SDI 入力キャリア検出アラーム復旧	i3InputSdiAlarmEnd		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.22
SDI 出力キャリア検出アラーム	i3OutputSdiAlarmStart		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.13
SDI 出力キャリア検出アラーム復旧	i3OutputSdiAlarmEnd		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.23
基準同期信号検出アラーム	i3RefAlarmStart		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.14
基準同期信号検出アラーム復旧	I3RefAlarmEnd		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.24
ファンアラーム	i3FanAlarmStart		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.15
ファンアラーム復旧	I3FanAlarmEnd		1.3.6.1.4.1.40592.3.2.25

■電源 1 アラーム / 電源 1 アラーム復旧の SNMP トラップメッセージフォーマット

トラップ送信のメッセージ値は、SNMP オブジェクト (i3P1Power) のメッセージ値になります。

電源 1 アラーム	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3P1PowerAlarmStart	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.10	i3P1Power
メッセージの書式 (variable-bindings)	電源 1 電圧値 (mV 単位)		
パラメータ	0 ~ xxxx		

電源 1 アラーム復旧	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3P1PowerAlarmEnd	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.20	i3P1Power
メッセージの書式 (variable-bindings)	電源 1 電圧値 (mV 単位)		
パラメータ	0 ~ xxxx		

■電源 2 アラーム / 電源 2 アラーム復旧の SNMP トラップメッセージフォーマット

トラップ送信のメッセージ値は、SNMP オブジェクト (i3P2Power) のメッセージ値になります。

電源 2 アラーム	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3P2PowerAlarmStart	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.11	i3P2Power
メッセージの書式 (variable-bindings)	電源 2 電圧値 (mV 単位)		
パラメータ	0 ~ xxxx		

電源 2 アラーム復旧	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3P2PowerAlarmEnd	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.21	i3P2Power
メッセージの書式 (variable-bindings)	電源 2 電圧値 (mV 単位)		
パラメータ	0 ~ xxxx		

■SDI 入力キャリア検出アラーム/SDI 入力キャリア検出アラーム復旧の SNMP トラップメッセージフォーマット

トラップ送信のメッセージ値は、SNMP オブジェクト (i3InputSdi) のメッセージ値になります。

SDI 入力キャリア 検出アラーム	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3InputSdiAlarmStart	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.12	i3InputSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	SDI 入力キャリア検出値 <i>ch_1, ch_2, . . . , ch_63, ch_64</i>		
パラメータ	<i>ch_1-64</i> : 入力チャンネルごとの検出値 0 = キャリア検出設定なし, 1 = キャリア検出, 2 = キャリア非検出		

SDI 入力キャリア 検出アラーム復旧	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3InputSdiAlarmEnd	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.22	i3InputSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	SDI 入力キャリア検出値 <i>ch_1, ch_2, . . . , ch_63, ch_64</i>		
パラメータ	<i>ch_1-64</i> : 入力チャンネルごとの検出値 0 = キャリア検出設定なし, 1 = キャリア検出, 2 = キャリア非検出		

※デュアルリンク SDI モードの場合、チャンネル数は半分になります。

8 系統単位での入出力数をカスタマイズした場合のチャンネル数は、カスタマイズした入出力数になります。

- SDI 出力キャリア検出アラーム/SDI 出力キャリア検出アラーム復旧の SNMP トラップメッセージフォーマット
トラップ送信のメッセージ値は、SNMP オブジェクト (i3OutputSdi) のメッセージ値になります。

SDI 出力キャリア 検出アラーム	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3OutputSdiAlarmStart	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.13	i3OutputSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	SDI 出力キャリア検出値 <i>ch_1, ch_2, . . . , ch_63, ch_64</i>		
パラメータ	<i>ch_1-64</i> : 出力チャンネルごとの検出値 0 = キャリア検出設定なし, 1 = キャリア検出, 2 = キャリア非検出		

SDI 出力キャリア 検出アラーム復旧	SNMP トラップ オブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3OutputSdiAlarmEnd	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.23	i3OutputSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	SDI 出力キャリア検出値 <i>ch_1, ch_2, . . . , ch_63, ch_64</i>		
パラメータ	<i>ch_1-64</i> : 出力チャンネルごとの検出値 0 = キャリア検出設定なし, 1 = キャリア検出, 2 = キャリア非検出		

※デュアルリンク SDI モードの場合、チャンネル数は半分になります。

8 系統単位での入出力数をカスタマイズした場合のチャンネル数は、カスタマイズした入出力数になります。

- 基準同期信号検出アラーム/基準同期信号検出アラーム復旧の SNMP トラップメッセージフォーマット
トラップ送信のメッセージ値は、SNMP オブジェクト (i3RefSdi) のメッセージ値になります。

基準同期信号検出アラーム	SNMP トラップオブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3RefAlarmStart	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.14	i3RefSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	基準同期信号検出値 <i>ref</i>		
パラメータ	<i>ref</i> : 基準同期信号検出値 0 = 検出設定なし 1 = 基準同期信号検出 (ブラックバースト (BB) 信号検出) 2 = 基準同期信号検出 (3 値同期信号検出) 3 = 基準同期信号非検出		

基準同期信号検出アラーム復帰	SNMP トラップオブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3RefAlarmEnd	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.24	i3RefSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	基準同期信号検出値 <i>ref</i>		
パラメータ	<i>ref</i> : 基準同期信号検出値 0 = 検出設定なし 1 = 基準同期信号検出 (ブラックバースト (BB) 信号検出) 2 = 基準同期信号検出 (3 値同期信号検出) 3 = 基準同期信号非検出		

- ファンアラーム/ファンアラーム復旧の SNMP トラップメッセージフォーマット
トラップ送信のメッセージ値は、SNMP オブジェクト (i3FanSdi) のメッセージ値になります。

ファンアラーム	SNMP トラップオブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3FanAlarmStart	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.15	i3FanSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	ファン回転数 (rpm 単位) <i>fan</i>		
パラメータ	0 ~ xxxx		

ファンアラーム復帰	SNMP トラップオブジェクト名	OID	呼び出される SNMP オブジェクト
	i3FanAlarmEnd	1.3.6.1.4.1.40592.3.2.25	i3FanSdi
メッセージの書式 (variable-bindings)	ファン回転数 (rpm 単位) <i>fan</i>		
パラメータ	0 ~ xxxx		

10.8.6 MIB ファイルのダウンロード

SNMP により情報取得と遠隔操作をするときには、MIB ファイルが必要です。

MIB とは Management Information Base の略で、SNMP プロトコルで使うオブジェクトの構造体を記述したテキストファイルです。

この MIB ファイル (MDX-64SDI-MIB.txt) は、弊社ホームページよりダウンロードができます。

```
iso.org.dod.internet.private.enterprises(1.3.6.1.4.1)
  idk(40592)
    sdims(3)
      sdimsInfo(1)
        i3P1Power(1)
        i3P2Power(2)
        i3InputSdi(3)
        i3OutputSdi(4)
        i3RefSdi(5)
        i3FanSdi(6)
      sdimsTrap(2)
        i3P1PowerAlarmStart(10)
        i3P2PowerAlarmStart(11)
        i3InputSdiAlarmStart(12)
        i3OutputSdiAlarmStart(13)
        i3RefAlarmStart(14)
        i3FanAlarmStart(15)
        i3P1PowerAlarmEnd(20)
        i3P2PowerAlarmEnd(21)
        i3InputSdiAlarmEnd(22)
        i3OutputSdiAlarmEnd(23)
        i3RefAlarmEnd(24)
        i3FanAlarmEnd(25)
```

11 製品仕様

項目	内容	
対応規格	SMPTE424M 準拠 (3G-SDI)、SMPTE292M 準拠 (HD-SDI)、SMPTE259M-C 準拠 (SD-SDI)、DVB-ASI (EN50083-9) ※デュアルリンク HD-SDI (SMPTE372M 準拠) 対応 (デュアルリンク SDI モード時) ※540 MHz の SD-SDI (SMPTE344M 準拠) は非対応 (480p / 576p)	
入力信号	64 系統 (注 1)、NRZI / NRZ 信号 0.8 V[p-p] / 75 Ω、コネクタ:BNC	
出力信号	64 系統 (注 1)、NRZI / NRZ 信号 0.8 V[p-p] / 75 Ω、コネクタ:BNC	
入力信号補償距離	3G-SDI 入力時:5C-FB 同軸ケーブル相当にて 70 mまで補償 HD-SDI 入力時:5C-FB 同軸ケーブル相当にて 100 mまで補償 SD-SDI 入力時:5C-2V 同軸ケーブル相当にて 200 mまで補償	
基準同期入出力	入出力 各 1 系統 3 値同期信号、ブラックバースト信号 (2 値信号) 0.3 V[p-p] ~ 0.6 V[p-p] / 75 Ω ※出力は電源 OFF 時はスルーアウト、電源 ON 時はアンプアウト コネクタ:BNC	
機能	電源二重化、電源・ファンは前面ホットスワップが可能、 入出力ボード・CPU ボードはラックから外さず交換可能、 入力信号補償機能、リクロック機能、出力信号のケーブルドライバ機能、 基準同期信号によるブランキング切換機能 (SMPTE RP168:2009 準拠) ※DVB-ASI は非対応、 3G / HD / SD-SDI 混入入力でフルマトリクスが可能 (フォーマット変換はできません)、 デュアルリンク HD-SDI のマトリクス切り換えが可能 (デュアルリンク SDI モード時)、 アラーム出力および SNMP トラップ送信機能 (電源監視、入出力キャリア監視、基準同期入力監視、ファン監視)、プリセットメモリ機能 (最大 64 メモリ)、スタートアップメモリ機能、 ラストメモリ機能、8 系統単位での入出力数のカスタマイズが可能、キーロック機能	
アラーム出力	1 系統 高密度 D-sub15 ピンコネクタ・オス	
外部制御	RS-232C	1 系統 D-sub9 ピンコネクタ・オス
	RS-422	1 系統 D-sub9 ピンコネクタ・メス
	LAN	1 系統 RJ-45 コネクタ 10Base-T/100Base-TX (Auto Negotiation)、Auto MDI/MDI-X
その他仕様	電源電圧	AC ~ 100 V - 240 V ±10%、50 Hz/60 Hz ±3 Hz
	消費電力	約 150 W
	外形寸法	430 (W) × 264 (H) × 350 (D) mm (EIA ラック 6U、突起物含まず)
	質量	20.8 kg
	温度	使用範囲:0 °C ~ +40 °C 保存範囲:-20 °C ~ +70 °C
	湿度	使用範囲:20 % ~ 90 % (ただし結露なきこと) 保存範囲:20 % ~ 90 % (ただし結露なきこと)
	付属品	電源コード (1.8 m) × 2、コードクランプ × 2、ラック取付金具、EMI フィルタ

(注 1) デュアルリンク SDI モードの場合は入出力系統数が半分になります。

12 正常に動作しないときは

本機が正常に動作しないときは、以下の点をご確認の上、弊社の本社営業部または各営業所までご連絡ください。

- ・本機および接続されている機器の電源は投入されていますか？
- ・ケーブルは正しく接続されていますか？
- ・ケーブルの接触不良はありませんか？
- ・機器に適合した正しいケーブルを使用していますか？
- ・接続している機器同士の信号規格は適合していますか？
- ・シンク機器（モニタなど）は正しく設定されていますか？
- ・機器の近くにノイズの原因となるようなものはありませんか？

故障の連絡をする際には以下の点を事前にテストしてください。

1. すべてのチャンネルで同じ現象がでますか？
-はい- -いいえ-
2. 本機を全く介さずに、純正のケーブルで接続したときは正常に動作しますか？
-はい- -いいえ-

13 ヒューズについて

本機には「5×20 mmガラス管ヒューズ」が搭載されています。何らかの原因により、機器の回路ショートや回路部品の故障が発生したときはヒューズが切れて本機に過大電流が流れることを防ぎます。本機の電源が入らない時、ヒューズホルダ内のヒューズが切れていないか確認してください。

使用ヒューズ : 250 V 3.15 A タイムラグヒューズ (5×20 mmガラス管ヒューズ)

※交換してもヒューズが切れる場合は故障の可能性がありますので、弊社の本社営業部または各営業所までご連絡ください。

MDX-6464SDI 取扱説明書 <ユーザーズガイド>

Ver.1.1.0

発行日 2016 年 08 月 30 日



株式会社 アイ・ディ・ケイ

本 社 〒242-0021 神奈川県大和市中央 7-9-1
TEL (046) 200-0764 FAX (046) 200-0765

関西営業所 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町 1-23-5 大同生命江坂第 2 ビル 5 階
TEL (06) 6192-0764 FAX (06) 6192-0906

九州営業所 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前 4-9-2 八百治センタービル 3 階
TEL (092) 431-0764 FAX (092) 431-0906

E メールアドレス info@idk.co.jp **ホームページ** <http://www.idk.co.jp/>